

<< シラバス 目次 >>

7. 教職課程に関する科目

科目番号	講義科目名称	ページ数	開講期間	配当年	単位数	科目必選
CT101A	教職概論	P1	後期	1年	2単位	選択
CT102A	教育学概論	P3	前期	1年	2単位	選択
CT103A	教育心理学	P5	前期	1年	2単位	選択
CT104A	教育工学	P6	後期	1年	2単位	選択
CT301A	教育制度学	P7	前期	2年	2単位	選択
CT302A	特別活動の研究	P9	後期	2年	2単位	選択
CT303A	生徒・進路指導論	P10	前期	2年	2単位	選択
CT304A	教育カウンセリング	P12	後期	2年	2単位	選択
CT305A	情報と職業	P13	後期	2年	2単位	選択
CT501B	教育課程論	P14	前期	3年	2単位	選択
CT502A	数学科教育法Ⅰ	P15	前期	2年	2単位	選択
CT503A	数学科教育法Ⅱ	P16	後期	2年	2単位	選択
CT504A	数学科指導法Ⅰ	P17	前期	3年	2単位	選択
CT505A	数学科指導法Ⅱ	P19	後期	3年	2単位	選択
CT506A	工業科教育法Ⅰ	P21	前期	3年	2単位	選択
CT506B	工業科教育法Ⅰ	P23	前期	3年	2単位	選択
CT507A	工業科教育法Ⅱ	P25	後期	3年	2単位	選択
CT507B	工業科教育法Ⅱ	P27	後期	3年	2単位	選択
CT508A	情報科教育法Ⅰ	P29	前期	3年	2単位	選択
CT509A	情報科教育法Ⅱ	P31	後期	3年	2単位	選択
CT510A	道徳教育の研究	P33	前期	3年	2単位	選択
CT511A	教育実習Ⅰ	P34	集中講義	4年	2単位	選択
CT512A	教育実習Ⅱ	P35	集中講義	4年	2単位	選択
CT513A	教育実習指導	P36	後期:3年、前期:4年	3.4年	2単位	選択
CT514A	教職実践演習	P38	後期	4年	2単位	選択
CT514B	教職実践演習	P40	後期	4年	2単位	選択
CT515A	職業指導Ⅰ	P42	前期	3年	2単位	選択
CT516A	職業指導Ⅱ	P44	後期	3年	2単位	選択

授業年度	2017	シラバスNo	CT101A
講義科目名称	教職概論		
英文科目名称	Introduction to the Teaching Profession		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位	選択
担当教員	田代 武博		
開講意義目的	この科目では、教職の意義や役割について学ぶとともに、教師としてさまざまな実践に取り組んでいくための基礎となる考え方・見方を養うことを目的とする。 特に近年、教員の資質向上は大きな課題となっており、教員評価制度や教員免許更新制などが注目を集めているが、これらの現代的改革動向を踏まえつつ、多岐にわたる教師の職務の性格の特殊性および教師に求められる資質について理解する。		
授業計画	<p>1回 オリエンテーション 1. 授業の概要説明 2. 恩師の姿を思い出してみよう</p> <p>2回 教師論・教師像の歴史的展開Ⅰ 1. 師匠から訓導へ 2. 「教員心得」</p> <p>3回 教師論・教師像の歴史的展開Ⅱ 1. 師範教育制度の確立 2. 教師「聖職者」観</p> <p>4回 教師の社会的使命と教師に求められる資質Ⅰ 1. 現代の教師像 ー五つの役割ー 2. 教師の持つべき愛情とは</p> <p>5回 教師の社会的使命と教師に求められる資質Ⅱ 1. 教師は何の「お手本」か【意見発表】 2. 教師の個性【ミニレポート】</p> <p>6回 教師の社会的使命と教師に求められる資質Ⅲ 1. いつの時代にも求められる資質能力 2. 今後特に求められる資質能力 3. 優れた教師の条件</p> <p>7回 教師の資格(免許)と任用 1. 教育職員免許状のしくみ 2. 免許状更新講習 3. 任用のしくみ</p> <p>8回 教師の職務の特殊性 1. 教員の身分の保障と尊重 2. 勤務条件と待遇 3. その他の特殊性</p> <p>9回 教師に課せられる義務Ⅰ 1. 服務の根本 2. 職務上の義務</p> <p>10回 教師に課せられる義務Ⅱ 1. 身分上の義務【対保護者想定のロールプレイ】 2. 懲戒処分について</p> <p>11回 教師の研修 1. 研修の意義 2. 研修の種類</p> <p>12回 教師の職務内容の多様性 1. 「教師の1日」を想定して 2. 先輩方のメッセージに学ぶ</p> <p>13回 教師をとりまく現代的課題 1. 保護者や地域住民との協力関係をめぐる課題【意見発表】 2. 心身の健康の確保 3. 教員評価制度</p> <p>14回 教員養成と教員採用選考のしくみ 1. 教員養成の現状と今後【意見発表】 2. 教員採用選考(教員採用試験)の理念と現状</p> <p>15回 まとめと期末試験 1. 授業のまとめ ー今日求められる教師のあり方と役割ー 2. 期末試験及びその解説</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は以下の教育目標との対応科目である。 1)豊かな人間性と社会人基礎力:豊かな人間性に根ざした倫理観、幅広い教養、理論と実践を結びつける学習姿勢を身につけ、教育者としての使命感と責任感、適切な社会性や他者との協調性をもち、主体的に行動することができる。【主体性・協働して学ぶ態度】 4)実務型技術者としての実践力:教育に関する理論及びそれを実践する基礎技能を身につけ、ものづくりやデザインに関わる人材の基礎教育を担うことにより地域社会や産業界に貢献することができる。【知識・技能】		
授業の到達目標	①教育に関する理論等についての基礎知識や基本的な考え方を修得する。 ②グループワークや口頭発表、意見交換等を通じて、教育者としての使命感、責任感、適切な社会性や協調性を身につける。		
指導方法	この授業は、講義形式での実施を基本とし、書き込み式プリントをつかって学習者は主体的に学習を進める。また、グループワークや口頭発表等をその時間の内容に即して適宜とり入れる。		
教科書・参考書	教科書:なし。書き込み式プリントを使用する。詳細は、第一回目の授業で説明をする。 参考書:佐藤徹編著『教職論』、東海大学出版会。その他は授業の進行状況にあわせて適宜紹介する。		
評価方法	授業参加・態度【15%】、成果発表【35%】、中間・期末試験【50%】の総合評価。(詳細については初回授業時に話をする。)		

受講上の注意	教職関係:本講義は、中学校一種免許状(数学)および高等学校一種免許状(数学, 工業, 情報)の教職に関する科目の「教職の意義等に関する科目」区分の必修科目に該当する。
授業外における学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ・特に基本的知識についての復習をしっかりと行うこと。(1時間に対して1時間以上を目安) ・自分を高め, 己を磨くことは, 授業時間でのみ行うことではない。日々の報道等に目を配るクセをつけるとともに, あらゆる人・物から学ぶ習慣を身につけていただきたい。
能動的授業科目及び地域志向科目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 能動的授業科目有無:あり 2. 能動的授業科目種類:アクティブラーニング(集団討論・意見発表・ロールプレイなど) 3. 地域志向科目有無:なし 4. 地域志向科目内容:ー

授業年度	2017	シラバスNo	CT102A
講義科目名称	教育学概論		
英文科目名称	Fundamentals of Education		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	選択
担当教員	田代 武博		
開講意義目的	教職課程の入門科目として、学校教育の基本的構造と実態についての理解をはかることを目的とする。初めに教育の理論や歴史の流れをおさえ、次に現在の教育改革の動向や学校の実態についての基本的な認識を得る。		
授業計画	<p>1回 オリエンテーション 1. 授業の概要(参考文献含む)の説明 2. 「教育」の指し示すもの (3. 教職課程履修に関する簡単な調査)</p> <p>2回 教育を考える上での基本概念と思考枠組み 1. 教授一学習 2. 発達概念 3. 発達と発達障害を教育学的にとらえる</p> <p>3回 教育理念の変遷 1. 世界史的にみた教育理念 2. 戦前期日本の教育理念 3. 現代の教育理念</p> <p>4回 子ども観の変遷 1. 今日のテーマについての連想ゲーム 2. 中世までの子ども観 3. 育児習俗の変化</p> <p>5回 教育観(学習指導論)の変遷 I 1. 生活陶冶の考え方 2. 新教育運動の思想と実践</p> <p>6回 教育観(学習指導論)の変遷 II 1. 第二次新教育運動 2. 範例学習 3. アメリカの学習指導論(チーム・ティーチングから有意味受容学習まで)</p> <p>7回 現代の学習指導 1. さまざまな討議法 2. 協同学習の新展開</p> <p>8回 学習指導要領と学力観 1. 学習指導要領とは何か 2. 学力観の変遷 3. 現在の学習指導要領</p> <p>9回 特別支援教育の考え方 1. 障害児教育史 2. 障害児教育理念の転換</p> <p>10回 学校経営と学級経営 1. 学校経営と学級経営 2. 学級経営をめぐる諸問題</p> <p>11回 生涯学習時代の学校と社会 I 1. 生涯教育から生涯学習へ 2. 生涯学習社会における学校の役割</p> <p>12回 生涯学習時代の学校と社会 II 1. 読書と学習指導 2. さまざまなボランティア活動と学校教育</p> <p>13回 公教育・教育行政のしくみ 1. 公教育の理念 2. 教育行政のしくみ</p> <p>14回 学習環境の整備 1. 学習環境の捉え方 2. 施設面の整備 3. 学習集団の再構築 ー学校と地域社会との結びつきー</p> <p>15回 授業のまとめおよび期末試験 1. 学習内容をふりかえり、中学校・高等学校教師としてのあり方を考える 2. 期末試験およびその解説</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は以下の教育目標との対応科目である。</p> <p>1)豊かな人間性と社会人基礎力:豊かな人間性に根ざした倫理観、幅広い教養、理論と実践を結びつける学習姿勢を身につけ、教育者としての使命感と責任感、適切な社会性や他者との協調性をもち、主体的に行動することができる。【主体性・協働して学ぶ態度】</p> <p>4)実務型技術者としての実践力:教育に関する理論及びそれを実践する基礎技能を身につけ、ものづくりやデザインに関わる人材の基礎教育を担うことにより地域社会や産業界に貢献することができる。【知識・技能】</p>		
授業の到達目標	教育をめぐるさまざまな考え方や教育方法などを理解する。また、現代の教育をめぐるさまざまな課題を理解し、適切な対応を考えることができる力を修得する。		
指導方法	書き込み式プリントを使用して講義形式で行う。ただし、一方的な説明に終始しないよう、できるだけ質疑・応答を取り入れたり、小レポート執筆や、ビデオ教材の視聴などを取り入れたりする予定である。		
教科書・参考書	教科書:なし。書き込み式プリントを使用(詳細は、第一回目の授業で説明をする)。 参考書:藤田英典・田中孝彦・寺崎弘昭『教育学入門』。その他は授業中に適宜紹介する。		
評価方法	授業参加・態度【15%】、成果発表およびレポート【35%】、中間・期末試験【50%】の総合評価。		

受講上の注意	教職関係:本講義は、中学校一種免許状(数学)および高等学校一種免許状(数学, 工業, 情報)の教職に関する科目の「教育の基礎理論に関する科目」区分の必修科目に該当する。
授業外における学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な用語の意味などについてよく復習すること。(授業1時間につき1時間以上を目安) ・受講者は自分がこれまでに体験してきた学校教育についての素朴な疑問などを大事にするとともに, 日ごろ, 教育時事に目を配っておくこと。
能動的授業科目及び地域志向科目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 能動的授業科目有無:なし 2. 能動的授業科目種類:ー 3. 地域志向科目有無:なし 4. 地域志向科目内容:ー

授業年度	2017	シラバスNo	CT103A
講義科目名称	教育心理学		
英文科目名称	Educational Psychology		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	選択
担当教員	山縣 宏美		
開講意義目的	教職課程受講者を対象に、人間の発達と教育に関わる諸問題を心理学的な観点から取り上げる。教育心理学的視点から、よりよい授業計画、学級運営をデザインできる力をつけることを目的とする。		
授業計画	1回 教育心理学とは オリエンテーション 2回 発達理論1 ピアジェの発達理論 3回 発達理論2 エリクソンの発達理論 4回 発達過程の理解 乳幼児期 乳幼児期の発達 認知的側面, 対人的側面 5回 発達過程の理解 児童期 児童期の発達 認知的側面, 対人的側面 6回 発達過程の理解 青年期 青年期の発達 アイデンティティの問題 7回 教授学習過程の理解1 学習の基礎 8回 教授学習過程の理解2 知識獲得の過程 9回 学習の動機づけ1 動機の種類, 特徴 10回 学習の動機づけ2 子どもの意欲を育てる授業法 11回 学級集団の理解 学級集団の特徴, 集団をどう扱うか 12回 個性・個人差と授業 学習に影響するさまざまな個人差 13回 測定と評価1 教育評価の機能, 測定法 14回 測定と評価2 統計の基礎 15回 期末試験, 試験内容の解説 期末試験, およびその解説		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は以下の教育目標との対応科目である。 1) 豊かな人間性と社会人基礎力: 豊かな人間性に根ざした倫理観、幅広い教養、理論と実践を結びつける学習姿勢を身につけ、教育者としての使命感と責任感、適切な社会性や他者との協調性をもち、主体的に行動することができる。 4) 実務型技術者としての実践力: 教育に関する理論及びそれを実践する基礎技能を身につけ、ものづくりやデザインに関わる人材の基礎教育を担うことにより地域社会や産業界に貢献することができる。		
授業の到達目標	教育心理学について深く理解し、これらの知見を生かしてよりよい授業計画、学級運営ができるようになる。 ・子どもの発達段階について、正確な知識を持つ ・学習のプロセスについて理解し、それに関わる要因について理解する ・学級集団に働く社会心理学的な要因について理解する		
指導方法	講義による		
教科書・参考書	プリントを配布 教科書: なし 参考書: なし		
評価方法	授業中の小テスト(30点)、期末試験(70点)により評価する		
受講上の注意	教職関係: 本講義は、中学校一種免許状(数学)及び高等学校一種免許状(数学、工業又は情報)の教職に関する科目の「教育の基礎理論に関する科目」区分の必修科目に該当する。		
授業外における学習方法	毎回小テストを行うため、授業内容をよく復習しておくこと		
能動的授業科目及び地域志向科目	1. 能動的授業科目有無: なし 2. 能動的授業科目種類: ー 3. 地域志向科目有無: なし 4. 地域志向科目内容: ー		

授業年度	2017	シラバスNo	CT104A
講義科目名称	教育工学		
英文科目名称	Educational Technology		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位	選択
担当教員	山縣 宏美		
開講意義目的	教職課程受講者を対象に、効果的に授業を行うためのさまざまな技術についての講義、実習を行う。実際に教材を作成するなど具体的な授業力を身につけることを目的とする。		
授業計画	1回 教育工学とは オリエンテーション 2回 授業理論1 行動主義に基づく授業理論 (プログラミング学習, 完全習得学習) 3回 授業理論2 認知心理学に基づく授業理論 (発見学習, 有意味受容学習) 4回 学習環境 授業形態の効果(個別授業, 小集団授業, 一斉授業) 協同学習の効果 5回 授業計画1 学習指導案の内容, 書き方について 6回 授業計画2 授業の設計・指導案作り・個人差のとりえ方について 7回 教材の提示法 効果的な板書方法 ICT教材 8回 良い説明とは 人に伝わる説明の仕方 視覚的情報を使用した説明(二重符号化理論) 9回 視聴覚メディアと教育1 マルチメディア教材の効果 10回 視聴覚メディアと教育2 適切なマルチメディア教材の取り入れ方 11回 コンピューターと教育1 コンピューターを使用した教育例 12回 コンピューターと教育2 コンピューターを使用した教育の長所・短所 13回 測定と評価 テストの妥当性, 信頼性 教育目標 絶対評価, 相対評価 14回 情報モラル 情報モラル教育について 学校と著作権 15回 校務とパソコン 校務におけるコンピューターの役割 小テスト		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は以下の教育目標との対応科目である。 2) 創意工夫力・問題解決力: 現代の教育をめぐる多種多様な問題について理解し、情報技術・コミュニケーション力を備え、創意工夫しながら課題解決に取り組むことができる。 3) 専門的知識・技術の活用力: 教科指導、生徒指導のための知識及び教科等に関する専門的知識を修得し、工業技術やデザインに関する知識・技能を教授することができる。		
授業の到達目標	・授業理論について理解し、適切な授業法を選択できるようになる ・授業の組み立てについて理解し、授業の展開を考えることができるようになる ・ICT機器を用いた授業を計画し、実施できるようになる ・情報モラル、著作権の問題について正しく理解し、適切に対応することができるようになる		
指導方法	講義と実習による		
教科書・参考書	プリントを配布 教科書: なし 参考書: なし		
評価方法	授業中の提出物(60点)、小テスト(40点)により評価する		
受講上の注意	教職関係: 本講義は、中学校一種免許状(数学)及び高等学校一種免許状(数学、工業又は情報)の教職に関する科目の「教育課程及び指導法に関する科目」区分の必修科目に該当する。		
授業外における学習方法	授業中に出される課題を作成し、次週までに提出すること		
能動的授業科目及び地域志向科目	1. 能動的授業科目有無: あり 2. 能動的授業科目種類: グループワーク形式のアクティブラーニング 3. 地域志向科目有無: なし 4. 地域志向科目内容: -		

授業年度	2017	シラバスNo	CT301A
講義科目名称	教育制度学		
英文科目名称	Educational System and Organization		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位	選択
担当教員	田代 武博		
開講意義目的	現在の学校制度を中心とした教育制度の概要を理解し、将来教職に就く上で必要な基礎知識を得ることを目的とする。特に、中学校・高等学校をはじめとする中等教育制度の制度的課題に重点を置いて学ぶ。		
授業計画	<p>1回 オリエンテーション 1. 授業の概要(参考文献含む)の説明 2. 教育制度に関する身近な疑問</p> <p>2回 教育制度史Ⅰ 1. 公教育制度の具現化 2. 戦前の教育制度・政策史</p> <p>3回 教育制度史Ⅱ 1. 戦後日本の教育改革 2. 中央教育審議会のはたらき 3. 臨時教育審議会の設置</p> <p>4回 現代教育法制の基礎 1. 教育法規の構造と関連法規 3. 教育を受ける権利と機会均等【指定テーマについて意見発表】</p> <p>5回 現代日本の学校教育制度Ⅰ 1. 学校の種類と設置主体 2. 教育基本法と学校教育法, 学校教育法施行規則</p> <p>6回 現代日本の学校教育制度Ⅱ 1. 中等教育段階の校種とその性格 2. 特別支援教育に関する規定</p> <p>7回 教職員に関する規定 [小テスト] 1. 欠格条項 2. 教職員の職階 3. 校務分掌</p> <p>8回 就学・修学に関する規定 [小テスト解説] 1. 入学や卒業のしくみ 2. 学級編制 3. 学期と休業日</p> <p>9回 教科書や教材に関する規定 1. 教科書とは 2. 教科用特定図書 3. 著作権に関する規定</p> <p>10回 教育委員会に関する規定 1. 教育委員会の組織 2. 教育委員会の役割</p> <p>11回 教育制度見直しの流れ 1. 戦前の教育制度改革論 2. 脱学校論・生涯教育論 3. 臨時教育審議会答申以降の流れ</p> <p>12回 今日の教育制度改革Ⅰ [小テスト] 1. 「開かれた学校」政策の趣旨 2. 学校評議員と学校運営協議会 3. 学校支援地域本部</p> <p>13回 今日の教育制度改革Ⅱ [小テスト解説] 1. 中等教育制度改革の趣旨 2. 中高一貫教育 3. 単位制高等学校 4. 高等学校無償化</p> <p>14回 今日の教育制度改革Ⅲ 1. 「教育三法」改革と各法改正の要点 2. 児童虐待防止に関する規定【指定テーマについて意見発表】</p> <p>15回 まとめと期末試験 1. まとめ 2. 期末試験およびその解説</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は以下の教育目標との対応科目である。 2)創意工夫力・問題解決力:現代の教育をめぐる多種多様な問題について理解し、情報技術・コミュニケーション力を備え、創意工夫しながら課題解決に取り組むことができる。【思考・判断・表現】 4)実務型技術者としての実践力:教育に関する理論及びそれを実践する基礎技能を身につけ、ものづくりやデザインに関わる人材の基礎教育を担うことにより地域社会や産業界に貢献することができる。【知識・技能】		
授業の到達目標	教育制度についての歴史、理論、現状と課題などを理解し、校務遂行や教育課題への対応を行っていくための思考能力を身につける。		
指導方法	基本的には、プリント・スライド等を使用した講義形式で進める。受講者が学んだことや考えたことを言葉で表現する機会を発問・小レポートその他で適宜用意する。		

教科書・参考書	教科書:なし。書き込み式プリントを配布する。 参考書:高妻紳二郎編著『新・教育制度論』, ミネルヴァ書房。その他は授業中に適宜紹介する。
評価方法	授業参加・態度【15%】、レポート・小テスト【35%】、中間・期末試験【50%】の総合評価。
受講上の注意	教職関係:本講義は、中学校一種免許状(数学)および高等学校一種免許状(数学, 工業, 情報)の教職に関する科目のうち、「教育の基礎理論に関する科目」区分の必修科目に該当する。
授業外における学習方法	・復習に重点を置き、宅習に励むこと。特に重要なところは小テストで問うので、これに備えた学習を十分に行うこと。 ・図書館を活用するなどして、教育法規や制度に関する難解な用語等に日頃から慣れていくこと。
能動的授業科目及び地域志向科目	1. 能動的授業科目有無:なし 2. 能動的授業科目種類:ー 3. 地域志向科目有無:なし 4. 地域志向科目内容:ー

授業年度	2017	シラバスNo	CT302A
講義科目名称	特別活動の研究		
英文科目名称	Extra-Curricular Activities		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位	選択
担当教員	田代 武博		
開講意義目的	この科目では、特別活動について、その歴史・指導内容・指導方法・指導計画等について理解し、適切な指導を行う観点および能力を身に付けることを目標とする。		
授業計画	<p>1回 オリエンテーション この授業の進め方について説明する。特別活動とは何かを理解する。</p> <p>2回 特別活動の歴史的展開Ⅰ 戦前の教科外活動のねらいや内容について理解する。</p> <p>3回 特別活動の歴史的展開Ⅱ 戦後の教科外活動・特別教育活動・特別活動の展開について理解する。</p> <p>4回 今日における特別活動の意義と役割 今日の教育改革の中で期待される特別活動の意義と役割を学ぶ。</p> <p>5回 教育課程における特別活動の位置 学校の教育課程全体での特別活動の位置付け・役割、「特別活動」領域の目的について理解する。 学校教育の一環としての部活動と特別活動のかかわりを理解する。</p> <p>6回 特別活動の内容Ⅰ 学級活動・ホームルーム活動の意義と役割・指導方法について学ぶ。</p> <p>7回 特別活動の内容Ⅱ 生徒会活動の意義と役割・指導方法について学ぶ。</p> <p>8回 特別活動の内容Ⅲ 学校行事(儀式的行事, 文化的行事, 健康安全・体育的行事, 旅行・集団宿泊の行事)の意義と役割・指導方法について学ぶ。</p> <p>9回 特別活動の方法と評価 特別活動の場面での方法を, レクリエーションやディスカッションを例に体験的に学ぶ。 特別活動の評価の観点・評価法などについて学ぶ。</p> <p>10回 指導案作成のポイント 学級活動・ホームルーム活動を例に, 指導案作りを練習する。</p> <p>11回 模擬授業Ⅰ 前回までの学習を踏まえて, 一定時間の模擬授業(マイクロ・ティーチング)を実施する。 授業を担当しない人もさまざまな役割を遂行する。</p> <p>12回 模擬授業Ⅱ 前回までの学習を踏まえて, 一定時間の模擬授業(マイクロ・ティーチング)を実施する。 授業を担当しない人もさまざまな役割を遂行する。</p> <p>13回 模擬授業Ⅲ 前回までの学習を踏まえて, 一定時間の模擬授業(マイクロ・ティーチング)を実施する。 授業を担当しない人もさまざまな役割を遂行する。</p> <p>14回 家庭・地域社会との連携による特別活動 家庭・地域社会・外部諸機関との連携による特別活動のあり方を具体例をもとに考える。</p> <p>15回 まとめと期末試験 受講者各人がこれまでの授業をまとめ, 今後の特別活動のあり方について考える。 期末試験とその解説を行う。</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は以下の教育目標との対応科目である。</p> <p>2)創意工夫力・問題解決力:現代の教育をめぐる多種多様な問題について理解し, 情報技術・コミュニケーション力を備え, 創意工夫しながら課題解決に取り組むことができる。【思考・判断・表現】</p> <p>3)専門的知識・技術の活用力:教科指導, 生徒指導のための知識及び教科等に関する専門的知識を修得し, 工業技術やデザインに関する知識・技能を教授することができる。【知識・技能】</p>		
授業の到達目標	特別活動の原理, あらまし, 内容区分などに関する基礎知識を修得し, それを活用して実践を展開するための基礎的な思考枠組みならびに実践的諸能力を修得する。		
指導方法	本時は講義形式を中心として進めるが, 適宜の発問や指導案作成, 模擬授業等を取り入れて, 受講者の意欲的な参加をはかりながら進める。		
教科書・参考書	教科書:なし。書き込み式プリントを配布する。 参考書:『中学校学習指導要領』文部科学省。『高等学校学習指導要領』文部科学省。その他は講義中に適宜紹介する。		
評価方法	①授業参加・態度【15%】、②レポート・成果発表【35%】、③中間・期末試験【50%】、以上3つによる総合的評価を行う。		
受講上の注意	教職関係:本講義は, 中学校一種免許状(数学)および高等学校一種免許状(数学, 工業, 情報)の教職に関する科目の「教育課程及び指導法に関する科目」区分の必修科目に該当する。		
授業外における学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の担当する模擬授業についての予習を十分に(2時間以上)行うこと。 ・日頃から生徒の自然体験や社会体験などにかかわる報道に注意を払っておくこと。部活動や大学以外の社会活動などに積極的に参加しておくことがのぞましい。 		
能動的授業科目及び地域志向科目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 能動的授業科目有無:あり 2. 能動的授業科目種類:アクティブラーニング(模擬授業) 3. 地域志向科目有無:なし 4. 地域志向科目内容:ー 		

授業年度	2017	シラバスNo	CT303A
講義科目名称	生徒・進路指導論		
英文科目名称	Student Guidance and Career Guidance		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位	選択
担当教員	田代 武博		
開講意義目的	この科目では、生徒たちのさまざまな問題行動や生徒の社会的適応・社会的自立が課題とされている今日の状況を認識し、生徒指導・進路指導の基本的な考え方や諸問題の現状について理解し、指導を進めていく際の基盤となる姿勢や態度、考え方を身につける。		
授業計画	<p>1回 オリエンテーション、生徒・進路指導の理念 1. 授業の概要(参考文献紹介を含む)の説明 2. 生徒指導・進路指導における基本的な考え方</p> <p>2回 生徒・進路指導の用語と理論 1. 生徒指導の用語と理論 2. 進路指導の用語と理論</p> <p>3回 生徒・進路指導の歴史 1. 戦前の生活指導 2. 戦後の生徒指導と進路指導</p> <p>4回 生徒理解のしかた 1. 生徒理解についての基本的な考え方 2. 資料収集の機会・方法と資料の性質</p> <p>5回 各領域における生徒・進路指導 1. 教科・道徳・総合的な学習の時間における生徒・進路指導 2. 学級活動・ホームルーム活動における生徒・進路指導ならびに教育相談・進路相談 3. ガイダンス機能</p> <p>6回 校則と規範意識の醸成 1. 校則の位置づけ 2. 規範意識と問題行動</p> <p>7回 懲戒と出席停止 1. 懲戒の意味 2. 停学と出席停止のちがいがい 3. 懲戒と出席停止の現状</p> <p>8回 教師による体罰・ハラスメント ー生徒・進路指導に関する諸問題の現状と対応 Iー 1. 体罰と懲戒のちがいがい 2. ハラスメントについての理解 3. 指定課題についての討論</p> <p>9回 不登校・長期欠席に対する対応 ー生徒・進路指導に関する諸問題の現状と対応 IIー 1. 不登校・長期欠席に対する基本的認識 2. ひきこもり</p> <p>10回 いじめ問題の予防と対応 ー生徒・進路指導に関する諸問題の現状と対応 IIIー 1. いじめ問題に対する基本的理解と対応 2. いじめ問題の多様化・複雑化 ーICT関連ー 3. ケース想定演習</p> <p>11回 青年期の非行その他の問題行動 ー生徒・進路指導に関する諸問題の現状と対応 IVー 1. 青年期の発達と心の問題 2. 少年非行の現状 3. 矯正教育機関等との連携</p> <p>12回 カウンセリングの理論と技法 1. カウンセリングの基本姿勢と着眼点 2. ケース想定演習</p> <p>13回 進路指導の理論と技法 1. 進路指導についての基本的理解 2. キャリア教育の考え方 3. ケース想定演習</p> <p>14回 生徒・進路指導の今日的展開 1. 健康相談と保健指導 2. 社会的自立上のさまざまな課題</p> <p>15回 まとめと期末試験 1. まとめ(生徒指導・進路指導のあり方についての要点確認) 2. 期末試験およびその解説</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は以下の教育目標との対応科目である。</p> <p>1)豊かな人間性と社会人基礎力:豊かな人間性に根ざした倫理観、幅広い教養、理論と実践を結びつける学習姿勢を身につけ、教育者としての使命感と責任感、適切な社会性や他者との協調性をもち、主体的に行動することができる。【主体性・協働して学ぶ態度】</p> <p>2)創意工夫力・問題解決力:現代の教育をめぐる多種多様な問題について理解し、情報技術・コミュニケーション力を備え、創意工夫しながら課題解決に取り組むことができる。【思考・判断・表現】</p> <p>3)専門的知識・技術の活用力:教科指導、</p>		
授業の到達目標	生徒指導・進路指導に関する諸理論、現代の諸問題などについての基礎的な知識と理解を得て、課題に対応していくための考え方や実践的技法、実践上の心構えと判断力を修得する。		
指導方法	基本的には講義形式で進めるが、受講者が考えたことを言葉で表現する機会を発問・小レポートその他のかたちで用意する。さらに、グループを組んでの調査報告または集団討論を行い、この分野に関する受講生の自覚と認識の深化を図る。		

教科書・参考書	教科書：なし。書き込み式プリントを配布する。ファイルの一部用意すること。 参考書：飯野哲朗『生き方を支える進路相談』，図書文化。その他は授業の中で適宜紹介する。
評価方法	授業参加・態度(25%)，レポートおよび成果発表(討論での発言も含む)(25%)，中間・期末試験(50%)の総合評価で行う。
受講上の注意	教職関係：本講義は，中学校一種免許状(数学)および高等学校一種免許状(数学，工業，情報)の教職に関する科目の「生徒指導，教育相談及び進路指導に関する科目」区分の必修科目に該当する。
授業外における学習方法	・知識というよりもむしろ考え方や対応方法について，じっくりと時間をかけた復習・省察を行うこと。 ・日頃から，生徒の問題行動や不適応事例に関する報道などによく目を配っておくこと。当事者意識をもって，それぞれの事例にどう向き合うかを常に考えながら報道に接するよう習慣づけること。
能動的授業科目及び地域志向科目	1. 能動的授業科目有無：あり 2. 能動的授業科目種類：アクティブラーニング(模擬指導，集団討論) 3. 地域志向科目有無：なし 4. 地域志向科目内容：－

授業年度	2017	シラバスNo	CT304A
講義科目名称	教育カウンセリング		
英文科目名称	Educational Counseling		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位	選択
担当教員	山縣 宏美		
開講意義目的	教職課程受講者を対象に、教育現場で起こるさまざまな心の問題に対する理解と援助の方法についての講義を行う。単なる講義形式ではなく、実習を行いながら、より深い理解を構築していくことを目的とする。		
授業計画	1回 教育カウンセリングとは 教育場面でのカウンセリング 2回 カウンセリングの基礎 カウンセリングの基礎、カウンセリングマインドを学ぶ 3回 カウンセリングの理論1 精神分析療法・来談者中心療法 4回 カウンセリングの理論2 行動療法・認知行動療法 5回 カウンセリングの理論3 家族療法 6回 子どものストレス ストレスの発生のプロセスとその対処 7回 開発的・予防的カウンセリング 構成的グループエンカウンターについて学ぶ 8回 発達障害1 発達障害の理解 9回 発達障害2 発達障害(広汎性発達障害)への支援 10回 発達障害3 発達障害(学習障害、ADHD)への支援 11回 子どもの抱える問題1 不登校・ひきこもりの特徴 12回 子どもの抱える問題2 不登校・ひきこもりへの対策 13回 子どもの抱える問題3 いじめの特徴 14回 子どもの抱える問題4 いじめへの対策 15回 期末試験、試験内容の解説 期末試験およびその解説		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は以下の教育目標との対応科目である。 1)豊かな人間性と社会人基礎力:豊かな人間性に根ざした倫理観、幅広い教養、理論と実践を結びつける学習姿勢を身につけ、教育者としての使命感と責任感、適切な社会性や他者との協調性をもち、主体的に行動することができる。 2)創意工夫力・問題解決力:現代の教育をめぐる多種多様な問題について理解し、情報技術・コミュニケーション力を備え、創意工夫しながら課題解決に取り組むことができる。 3)専門的知識・技術の活用力:教科指導、生徒指導のための知識及び教科等に関する専門的		
授業の到達目標	教育現場で起こる様々な心の問題に対して深く理解し、適切な対応がとれるようになる。 ・カウンセリングの手法について理解し、適切に用いることができるようになる ・発達障害、精神障害について正しく理解し、適切な対応がとれるようになる ・いじめ、ひきこもりの問題について正しく理解し、適切な対応がとれるようになる		
指導方法	講義を主とするが、カウンセリングの回ではあわせて実習も行う。また参加者の意見発表・討論も求める。		
教科書・参考書	プリントを配布 教科書:なし 参考書:なし		
評価方法	授業参加態度(30点)とテスト(70点)により評価する。		
受講上の注意	教職関係:本講義は、中学校一種免許状(数学)及び高等学校一種免許状(数学、工業又は情報)の教職に関する科目の「生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目」区分の必修科目に該当する。		
授業外における学習方法	授業中に出される課題を、次週までに完成させ提出すること		
能動的授業科目及び 地域志向科目	1. 能動的授業科目有無:あり 2. 能動的授業科目種類:グループワーク形式のアクティブラーニング 3. 地域志向科目有無:なし 4. 地域志向科目内容:ー		

授業年度	2017	シラバスNo	CT305A
講義科目名称	情報と職業		
英文科目名称	Information and an Occupation		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位	選択
担当教員	皆川 重男		
開講意義目的	高等学校普通教科「情報」の教員免許取得に必要とする専門科目「情報と職業」について講義する。情報化社会とはどのような社会なのか、理解を基盤に現実の社会情勢の推移及び科学技術の発展を認識し、高校生に、情報・職業に関する知識と技術を提供するだけでなく、社会でのキャリアの重要さと職業意識を醸成するように教育するための、情報化社会の現状に柔軟かつ的確に対応できる資質と能力を習得することを目的とし講義の到達点とする。		
授業計画	<p>1回 情報化社会と職業 情報化社会における職業の特徴・特性を情報社会学の視点から歴史的経緯を含めて分析し、職業倫理から職業観の変遷を説明する。</p> <p>2回 情報化社会における職業観 情報化社会を説明し、その特徴を把握しながら、社会生活、職業を通して社会貢献する意識、価値観、責任感について概説する。</p> <p>3回 職業選択と雇用制度 IT革命で新たな職業が生まれ、又雇用制度も多く大きく変容しつつある現状を説明する。</p> <p>4回 情報化社会と市民の暮らし 情報化社会、即ち情報がより大きな価値を持つ社会の到来で、市民は溢れる情報の中で自己責任による取捨選択を求められている。情報とデータの違いを前提に市民生活の確立について説明する</p> <p>5回 生涯学習と自己学習力 高度情報社会は、年齢・性別・環境によらない持続的な学習を求めている。社会教育と学校教育の垣根のを低くする社会と自己学習力の向上について説明する。</p> <p>6回 勤労時間の短縮と余暇時間 年間1800時間の労働時間時代の到来で、現役時代の余暇時間は大幅に増加している。余暇時代をわが国より先に実現したヨーロッパを事例に、余暇の社会的あり方と情報の役割を述べる</p> <p>7回 情報化社会と高等教育 高度情報社会は高等教育の中に情報教育の重要性を高めることを要請するが、現実の社会はまだ十分に対応していない。高等教育にどのような情報教育が要請されているかを検討する。</p> <p>8回 情報技術と社会の改革 情報化社会、情報技術の進展が、社会のどこを変化させているのか、又どのように変化させるのかを検証する。</p> <p>9回 情報化社会とIT革命 産業革命とIT革命の違いを検討しながら、IT革命後の情報化社会の成果について考える。</p> <p>10回 企業など組織の情報化 IT革命の進展で最も変革したのが企業組織である。ホワイトカラーの減少、生産管理のIT化など現在企業で発生している現状を解説する。</p> <p>11回 これからビジネスシステムと経営 IT化を基本にしたビジネスモデルとその起業化、又その中で要請される企業経営管理のあり方について説明する。</p> <p>12回 情報技術と人材育成 人々のライフスタイルの変化とライフサイクルの変化を基礎に、キャリア形成支援教育の必要性を考える。</p> <p>13回 情報産業の国際化 情報量の拡大、情報通信手段の高速化・グローバル化がもたらしたグローバルなネットと引きの実態と今後の変化を考える。</p> <p>14回 情報技術とメディアの活用方法 情報システムの導入の経過とコンピュータや通信ネットワーク環境等の情報技術導入がもたらした、社会変化について解説する。</p> <p>15回 期末試験とその解説 期末試験を行い、その解説とこれまでの講義を振り返る。</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は以下の教育目標との対応科目である。 3) 専門的知識・技術の活用力: 教科指導、生徒指導のための知識及び教科等に関する専門的知識を修得し、工業技術やデザインに関する知識・技能を教授することができる。		
授業の到達目標	社会でのキャリアの重要さと職業意識を醸成するように教育するための、情報化社会の現状に柔軟かつ的確に対応できる資質と能力を習得できる。		
指導方法	教員採用試験も視野にいれ、幅広い関連知識を習得できるよう配慮して講義を進める。 情報の機器、ネットワーク化、コンテンツは日々進展していることを踏まえ、一方通行の講義だけではなく、自らのキャリアデザインを構築しながら、教育的な能力を増加させるように、参加型で講義を進める。		
教科書・参考書	教科書: なし 必要な資料は講義の進展に従って配布する 参考書: 「情報と職業」 近藤 勲編著 丸善株式会社		
評価方法	期末試験(50%)、レポートの提出状況及び講義への参加態度(50%)で評価する。		
受講上の注意	教職関係: 本講義は、高等学校一種免許状(情報)の教科に関する科目(情報)の「情報と職業」区分の必修科目に該当する。 オフィスアワー: 授業終了後に教室にて質問を受け付ける。または、メール(minagawa@nishitech.ac.jp)で随時受け付ける。予習、復習は欠かせない。		
授業外における学習方法	教育目標を達成するために、毎日、新聞等マスコミが報道する、情報産業や雇用状況のニュースをチェックし、レポートを作成する。		
能動的授業科目及び地域志向科目	1. 能動的授業科目有無: あり 2. 能動的授業科目種類: グループワーク形式のアクティブラーニング、プレゼンテーションなど。 3. 地域志向科目有無: なし 4. 地域志向科目内容: -		

授業年度	2017	シラバスNo	CT501B
講義科目名称	教育課程論		
英文科目名称	Curriculum Theory		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2単位	選択
担当教員	川野 司		
開講意義目的	①教育課程について学校現場の具体的内容が考えられるようにケース教材を使用する。②教師としての実践的指導力を修得することを目的とする。		
授業計画	1回 オリエンテーション 授業テーマ、班分け、レポート提出等の説明 2回 教育課程を考える 別紙プリントを参照する 3回 学習指導要領を考える 別紙プリントを参照する 4回 学校を考える 1章「学校を考える」(教科書1～18頁) 5回 授業を考える 5章「授業を考える」(教科書62～77頁) 6回 生徒指導を考える 6章「生徒指導を考える」(教科書78～93頁) 7回 特別支援教育を考える 7章「特別支援教育を考える」(教科書94～101頁) 8回 道徳教育を考える 8章「道徳教育を考える」(教科書102～116頁) 9回 特別活動を考える 9章「特別活動を考える」(教科書117～125頁) 10回 総合的な学習の時間を考える ?章「総合的な学習の時間を考える」(教科書126～140頁) 11回 学級経営を考える 11章「学級経営を考える」(教科書141～153頁) 12回 学校事故を考える 12章「学校事故を考える」(教科書154～165頁) 13回 教育評価を考える 4章「教育評価を考える」(教科書48～61頁) 14回 危機管理を考える ?章「危機管理を考える」(教科書91～93、157～162頁) 15回 テスト 記述式の簡単なテスト		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は以下の教育目標との対応科目である。 2) 現代の教育をめぐるさまざまな課題について理解し、適切な対応を考えることができる能力を修得する。(思考・判断) 3) 教科指導、生徒指導のための知識、教科等に関する専門的知識を修得する。(知識・理解)		
授業の到達目標	授業は、考える習慣(思考力)、コミュニケーション力、判断力と表現力、実践的指導力、人間としての生き方などを修得する。		
指導方法	授業は、討論形式を取り入れた授業(ケースメソッド授業と言う)を行う。そのために、授業ではケース教材に対する個人学習(予習)が必要である。授業は4つのセッションに分かれている。第1セッションは代表グループによる授業テーマのプレゼン。第2セッションは授業テーマのグループ討論。第3セッションは教員の説明。第4セッションは授業の振り返りである。		
教科書・参考書	教科書:川野司著「実践!学校教育入門」昭和堂 参考書:なし		
評価方法	授業のプレゼン発表、グループ討論などの積極性、参加度など(30%)、授業テーマレポート(40%)、テスト(30%)		
受講上の注意	・教職関係:本講義は、中学校一種免許状(数学)及び高等学校一種免許状(数学、工業又は情報)の教職に関する科目の「教育課程及び指導法に関する科目」区分の必修科目に該当する。 ・4回目からは授業テーマのケースを提示するので、そのテーマについて予習(個人学習)をしておく。 ・オフィスアワー:授業終了後に教室にて質問を受け付ける。		
授業外における学習方法	予習(個人学習)では設問を3つ準備しているので、その設問の対する回答を作成しておく。		
能動的授業科目及び 地域志向科目	・能動的授業科目有無:なし 能動的授業科目種類:— ・地域志向科目有無:なし 地域志向科目内容:—		

授業年度	2017	シラバスNo	CT502A
講義科目名称	数学科教育法 I		
英文科目名称	Pedagogy in Mathematics 1		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位	選択
担当教員	松崎 和孝		
開講意義目的	教員免許(数学)取得には、数学力と表現力を身につけることが必要である。模擬授業、調査、ディスカッション等を通じて、数学教師に必要な数学各分野についての幅広い知識や表現力を身につけることをこの講義の目的とする。		
授業計画	1回 数学教師・教育実習 数学教師や教育実習について解説 2回 高等学校数学の理解度調査 数学 I、数学A、数学Bの理解度調査と解説 3回 学習指導要領 学習指導要領の調査と解説 4回 理解度調査の内容の解説と模擬授業1 数学 I の理解度調査の内容についての模擬授業の解説 5回 理解度調査の内容の解説と模擬授業2 数学Aと数学Bの理解度調査の内容についての模擬授業の解説 6回 教科書における数学記号の調査 教科書における数学記号の種類や特徴の調査と解説 7回 ICTの活用 関数電卓、電子黒板、グラフソフト、数式入力ソフトの調査と解説 8回 ディスカッション 「わかりやすい授業」や「数学への興味・関心」等についてのディスカッションと解説 9回 数学 I の学習内容 数学 I の学習内容とその発展的内容の解説 10回 数学Aの学習内容 数学Aの学習内容とその発展的内容の解説 11回 数学Bの学習内容 数学Bの学習内容とその発展的内容の解説 12回 数学 II の学習内容1 関数を中心とした数学 II の学習内容とその発展的内容の解説 13回 数学 II の学習内容2 微分・積分を中心とした数学 II の学習内容とその発展的内容の解説 14回 数学 III の学習内容1 極限を中心とした数学 III の学習内容とその発展的内容の解説 15回 数学 III の学習内容2 微分法・積分法を中心とした数学 III の学習内容とその発展的内容の解説		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は以下の教育目標との対応科目である。 3) 専門的知識・技術の活用力 教科指導、生徒指導のための知識及び教科等に関する専門的知識を修得し、工業技術やデザインに関する知識・技能を教授することができる。		
授業の到達目標	教員免許取得に不可欠な数学力、表現力を身につける。		
指導方法	模擬授業や課題発表でのプレゼンテーションとディスカッションを通じて、教員のあるべき姿について指導していく。		
教科書・参考書	教科書：啓林館詳説シリーズの高等学校の教科書 参考書：内容に応じて適宜紹介する		
評価方法	成果発表50%、レポート30%、授業参加・態度20%		
受講上の注意	教職関係：本講義は、中学校一種免許状(数学)及び高等学校一種免許状(数学)の教職に関する科目の「教育課程及び指導法に関する科目」区分の必修科目に該当する。 また、次の2点に注意すること。 ・欠席しないこと ・20分以上の遅刻は欠席扱いとする		
授業外における学習方法	授業前には、与えられた課題について十分準備し、様々な視点からの質問への対応方法を準備すること。 授業後には、授業内での指導事項について取り纏め、次回以降の授業改善に役立てること。		
能動的授業科目及び 地域志向科目	1. 能動的授業科目有無：あり 2. 能動的授業科目種類：グループディスカッション形式のアクティブラーニング 3. 地域志向科目有無：なし 4. 地域志向科目内容：-		

授業年度	2017	シラバスNo	CT503A
講義科目名称	数学科教育法Ⅱ		
英文科目名称	Pedagogy in Mathematics 2		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位	選択
担当教員	松崎 和孝		
開講意義目的	数学科教育法Ⅰに引き続き、模擬授業、調査、ディスカッション等を通じて、数学教師に必要な数学力と表現力を身につける。また、高等学校と大学の数学との関連を学ぶことで、高等学校の数学の背後にある深い数学的理論についても俯瞰し、数学教員に必要な数学力を身につけることをこの講義の目的とする。		
授業計画	1回 数学科教育法Ⅱについて 数学科教育法Ⅱの授業の進め方や数学科教育法Ⅰの反省点についての指導 2回 高等学校数学の理解度調査 数学Ⅱと数学Ⅲの理解度調査と解説 3回 指導案と板書計画 指導案と板書計画の解説 4回 整数 生徒の苦手な単元の「整数」について解説 5回 2次曲面 生徒の苦手な単元の「2次曲面」について解説 6回 複素平面 生徒の苦手な単元の「複素平面」について解説 7回 高等学校の数学と大学数学の関連1 実数の連続性、ペアノの公理の調査とディスカッション 8回 高等学校の数学と大学数学の関連2 ϵ - δ 論法、上限と下限、連続と一様連続の調査とディスカッション 9回 高等学校の数学と大学数学の関連3 群・環・体の調査とディスカッション 10回 高等学校の数学と大学数学の関連4 ユークリッドの第5公準、ギリシャの作図問題の調査とディスカッション 11回 高等学校の数学と大学数学の関連5 連続体仮説の調査とディスカッション 12回 問題作成と採点1 問題作成と採点のポイントの解説 13回 問題作成と採点2 問題と採点案についてのディスカッションと解説 14回 課題学習 課題学習とその題材についての調査と解説 15回 課題学習を意識した授業実践 課題学習の模擬授業と解説		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は以下の教育目標との対応科目である。 3) 専門的知識・技術の活用力 教科指導、生徒指導のための知識及び教科等に関する専門的知識を修得し、工業技術やデザインに関する知識・技能を教授することができる。		
授業の到達目標	教員免許取得に不可欠な数学力、表現力を身につける。		
指導方法	模擬授業や課題発表でのプレゼンテーションとディスカッションを通じて、教員のあるべき姿について指導していく。		
教科書・参考書	教科書：内容に応じて適宜紹介する 参考書：啓林館詳説シリーズの高等学校の教科書		
評価方法	成果発表50%、レポート30%、授業参加・態度20%		
受講上の注意	教職関係：本講義は、中学校一種免許状(数学)及び高等学校一種免許状(数学)の教職に関する科目の「教育課程及び指導法に関する科目」区分の必修科目に該当する。 また、次の2点に注意すること。 ・欠席しないこと ・20分以上の遅刻は欠席扱いとする		
授業外における学習方法	授業前には、与えられた課題について十分準備し、様々な視点からの質問への対応方法を準備すること。 授業後には、授業内での指導事項について取り纏め、次回以降の授業改善に役立てること。		
能動的授業科目及び地域志向科目	1. 能動的授業科目有無：あり 2. 能動的授業科目種類：グループディスカッション形式のアクティブラーニング 3. 地域志向科目有無：なし 4. 地域志向科目内容：-		

授業年度	2017	シラバスNo	CT504A
講義科目名称	数学科指導法 I		
英文科目名称	Mathematics Teaching Methods 1		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2単位	選択
担当教員	及川 久遠		
開講意義目的	<p>中学校・高等学校の数学教員を「本気」で目指す学生を対象に、よい先生になるためには「これから何をすべきか」を明示し、「いまの諸君に足りないもの」があればそれを補うことが、この講座の開講意義である。</p> <p>なお、指導法では生徒への指導のための基礎知識を、教育法ではその数学的背景を学び、数学教員に求められる教養と技術を修得する。</p>		
授業計画	<p>第1回 中学校1学年「数と式」について 中学校1学年の「数と式」に関する内容を指導要領解説と教科書を用い確認する。 さらに、指導実践や発展学習について論文等を用いて紹介する。 演習:4~5名の班による集団討論</p> <p>第2回 中学校1学年「図形」について 中学校1学年の「図形」に関する内容を指導要領解説と教科書を用い確認する。 さらに、指導実践や発展学習について論文等を用いて紹介する。 演習:15分程度の模擬授業</p> <p>第3回 中学校1学年「関数」について 中学校1学年の「関数」に関する内容を指導要領解説と教科書を用い確認する。 さらに、指導実践や発展学習について論文等を用いて紹介する。 演習:15分程度の模擬授業</p> <p>第4回 中学校1学年「資料の活用」について 中学校1学年の「資料の活用」に関する内容を指導要領解説と教科書を用い確認する。 さらに、指導実践や発展学習について論文等を用いて紹介する。 演習:15分程度の模擬授業</p> <p>第5回 「数学的活動」について(1) 中学校1学年に相応しい「数学的活動」に関する指導実践や発展学習について論文等を用いて紹介する。 演習:15分程度の模擬授業</p> <p>第6回 中学校2学年「数と式」について 中学校2学年の「数と式」に関する内容を指導要領解説と教科書を用い確認する。 さらに、指導実践や発展学習について論文等を用いて紹介する。 演習:15分程度の模擬授業</p> <p>第7回 中学校2学年「図形」について 中学校2学年の「図形」に関する内容を指導要領解説と教科書を用い確認する。 さらに、指導実践や発展学習について論文等を用いて紹介する。 演習:15分程度の模擬授業</p> <p>第8回 中学校2学年「関数」について 中学校2学年の「関数」に関する内容を指導要領解説と教科書を用い確認する。 さらに、指導実践や発展学習について論文等を用いて紹介する。 演習:15分程度の模擬授業</p> <p>第9回 中学校2学年「資料の活用」について 中学校2学年の「資料の活用」に関する内容を指導要領解説と教科書を用い確認する。 さらに、指導実践や発展学習について論文等を用いて紹介する。 演習:15分程度の模擬授業</p> <p>第10回 「数学的活動」について(2) 中学校2学年に相応しい「数学的活動」に関する指導実践や発展学習について論文等を用いて紹介する。 演習:15分程度の模擬授業</p> <p>第11回 中学校3学年「数と式」について 中学校3学年の「数と式」に関する内容を指導要領解説と教科書を用い確認する。 さらに、指導実践や発展学習について論文等を用いて紹介する。 演習:15分程度の模擬授業</p> <p>第12回 中学校3学年「図形」について 中学校3学年の「図形」に関する内容を指導要領解説と教科書を用い確認する。 さらに、指導実践や発展学習について論文等を用いて紹介する。 演習:15分程度の模擬授業</p> <p>第13回 中学校3学年「関数」について 中学校3学年の「関数」に関する内容を指導要領解説と教科書を用い確認する。 さらに、指導実践や発展学習について論文等を用いて紹介する。 演習:15分程度の模擬授業</p> <p>第14回 中学校3学年「資料の活用」について 中学校3学年の「資料の活用」に関する内容を指導要領解説と教科書を用い確認する。 さらに、指導実践や発展学習について論文等を用いて紹介する。 演習:15分程度の模擬授業</p> <p>第15回 「数学的活動」について(3) 中学校3学年に相応しい「数学的活動」に関する指導実践や発展学習について論文等を用いて紹介する。 演習:15分程度の模擬授業</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は以下の教育目標との対応科目である。</p> <p>3) 専門的知識・技術の活用力 教科指導、生徒指導のための知識及び教科等に関する専門的知識を修得し、工業技術やデザインに関する知識・技能を教授することができる。</p>		
授業の到達目標	<p>1. 指導要領に基づき、中学校・高校の学習内容を正確に把握する。</p> <p>2. 講義や実習、模擬授業を通して、教材開発の方法や指導の方法を修得する。</p> <p>3. 演習や問題集を用いた自宅学習などを通して、中学校(および高校)の数学を体系的に修得する。</p>		
指導方法	<p>1. 講義を通して、中学校(および高校)の数学の学習内容を確認する。</p> <p>2. 教科書の問題を用いた学習(学内、学外)を通して基礎学力を確認する。</p> <p>3. 演習問題の解説という形を通して授業方法について、現場経験に基づいてアドバイスを行う。</p> <p>なお、教師役以外の学生は生徒役兼評価者として積極的に参加してもらう。</p>		

教科書・参考書	教科書:以下の教科書は前期・後期通して使用する。 すべてを購入すること。売店で販売できないものもあるので指示に従うこと。 中学校学習指導要領解説 数学編, 高等学校学習指導要領解説 数学編 体系数学1代数編, 体系数学1幾何編, 体系数学2代数編, 体系数学2幾何編 数研出版 中学数学資料集 数学の泉 改訂新版 地域教材社 参考書:なし
評価方法	1. 大レポート:30% 2. 演習ノートの作成:30% 3. 毎回の小テストと学習指導案の作成:20% 4. 講義への取り組み状況(意欲・関心・態度等):20%
受講上の注意	本講義は, 中学校一種免許状(数学)及び高等学校一種免許状(数学)の教職に関する科目の「教育課程及び指導法に関する科目」区分の必修科目に該当する。 1. 受講生全員が中高の教員を目指しているという前提で徹底的に鍛えていく。 もちろん, 免許が欲しいだけという学生も同等に扱う。やる気と基礎学力がないと厳しいので準備すること。 2. 初講日にB版のキャンパスノートを2冊(講義用, 演習用)を準備しておくこと。 <オフィスアワー(質問等の時間)について> 大学のH.P.を参照のこと。
授業外における学習方法	授業前:あらかじめ指定教科書に目を通し, 講義で扱う単元の概要を把握しておくこと。 授業後:問題集や配布されたプリントの演習問題を解いて知識の定着と活用に励むこと。 さらに, 授業前後(共通):受講者同士でグループ学習を行い, プレゼンテーション能力を養うこと。
能動的授業科目及び地域志向科目	1. 能動的授業科目有無:あり 2. 能動的授業科目種類:アクティブラーニング, プレゼンテーション 3. 地域志向科目有無:なし 4. 地域志向科目内容:-

授業年度	2017	シラバスNo	CT505A
講義科目名称	数学科指導法Ⅱ		
英文科目名称	Mathematics Teaching Methods 2		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	2単位	選択
担当教員	及川 久遠		
開講意義目的	中学校・高等学校の数学教員を「本気」で目指す学生を対象に、よい先生になるためには「これから何をすべきか」を明示し、「いまの諸君に足りないもの」があればそれを補うことが、この講座の開講意義である。 なお、指導法では生徒への指導のための基礎知識を、教育法ではその数学的背景を学び、数学教員に求められる教養と技術を修得する。		
授業計画	<p>第1回 中学校1学年「数と式」について 中学校1学年の「数と式」に関する15分程度の模擬授業と事後討論を行う。 この分野の採用試験問題を研究する。</p> <p>第2回 中学校1学年「図形」について 中学校1学年の「図形」に関する15分程度の模擬授業と事後討論を行う。 この分野の採用試験問題を研究する。</p> <p>第3回 中学校1学年「関数」について 中学校1学年の「関数」に関する15分程度の模擬授業と事後討論を行う。 この分野の採用試験問題を研究する。</p> <p>第4回 中学校1学年「資料の活用」について 中学校1学年の「資料の活用」に関する15分程度の模擬授業と事後討論を行う。 この分野の採用試験問題を研究する。</p> <p>第5回 「数学的活動」について(1) 中学校1学年に相応しい「数学的活動」に関する15分程度の模擬授業と事後討論を行う。 この分野の採用試験問題を研究する。</p> <p>第6回 中学校2学年「数と式」について 中学校2学年の「数と式」に関する15分程度の模擬授業と事後討論を行う。 この分野の採用試験問題を研究する。</p> <p>第7回 中学校2学年「図形」について 中学校2学年の「図形」に関する15分程度の模擬授業と事後討論を行う。 この分野の採用試験問題を研究する。</p> <p>第8回 中学校2学年「関数」について 中学校2学年の「関数」に関する15分程度の模擬授業と事後討論を行う。 この分野の採用試験問題を研究する。</p> <p>第9回 中学校2学年「資料の活用」について 中学校2学年の「資料の活用」に関する15分程度の模擬授業と事後討論を行う。 この分野の採用試験問題を研究する。</p> <p>第10回 「数学的活動」について(2) 中学校2学年に相応しい「数学的活動」に関する15分程度の模擬授業と事後討論を行う。 この分野の採用試験問題を研究する。</p> <p>第11回 中学校3学年「数と式」について 中学校3学年の「数と式」に関する15分程度の模擬授業と事後討論を行う。 この分野の採用試験問題を研究する。</p> <p>第12回 中学校3学年「図形」について 中学校3学年の「図形」に関する15分程度の模擬授業と事後討論を行う。 この分野の採用試験問題を研究する。</p> <p>第13回 中学校3学年「関数」について 中学校3学年の「関数」に関する15分程度の模擬授業と事後討論を行う。 この分野の採用試験問題を研究する。</p> <p>第14回 中学校3学年「資料の活用」について 中学校3学年の「資料の活用」に関する15分程度の模擬授業と事後討論を行う。 この分野の採用試験問題を研究する。</p> <p>第15回 「数学的活動」について(3) 中学校3学年に相応しい「数学的活動」に関する15分程度の模擬授業と事後討論を行う。 この分野の採用試験問題を研究する。</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は以下の教育目標との対応科目である。 3) 専門的知識・技術の活用力 教科指導、生徒指導のための知識及び教科等に関する専門的知識を修得し、工業技術やデザインに関する知識・技能を教授することができる。		
授業の到達目標	1. 指導要領に基づき、中学校・高校の学習内容を正確に把握する。 2. 講義や実習、マイクロティーチングを通して、教材開発の方法や指導の方法を修得する。 3. 演習や問題集を用いた自宅学習などを通して、中学校(および高校)の数学を体系的に修得する。		
指導方法	1. マイクロティーチングを通して、中学校の数学の学習内容を確認する。 2. 問題集を用いた学習(学内、学外)を通して基礎学力を確認する。		
教科書・参考書	教科書: 以下の教科書は前期・後期通して使用する。 すべてを購入すること。売店で販売できないものもあるので指示に従うこと。 中学校学習指導要領解説 数学編, 高等学校学習指導要領解説 数学編 体系数学1代数編, 体系数学1幾何編, 体系数学2代数編, 体系数学2幾何編 数研出版 中学数学資料集 数学の泉 改訂新版 地域教材社 参考書: なし		
評価方法	1. 大レポート: 30% 2. 演習ノートの作成: 30% 3. 毎回の小テストと学習指導案の作成: 20% 4. 講義への取り組み状況(意欲・関心・態度等): 20%		

受講上の注意	<p>本講義は、中学校一種免許状(数学)及び高等学校一種免許状(数学)の教職に関する科目の「教育課程及び指導法に関する科目」区分の必修科目に該当する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受講生全員が中高の教員を目指しているという前提で徹底的に鍛えていく。 もちろん、免許が欲しいだけという学生も同等に扱う。やる気と基礎学力がないと厳しいので準備すること。 2. 初講日にB版のキャンパスノートを2冊(講義用, 問題集用)を準備しておくこと。
授業外における学習方法	<p>授業前: あらかじめ指定教科書に目を通し、講義で扱う単元の概要を把握しておくこと。 授業後: 問題集や配布されたプリントの演習問題を解いて知識の定着と活用に励むこと。 さらに、 授業前後(共通): 受講者同士でグループ学習を行い、プレゼンテーション能力を養うこと。</p>
能動的授業科目及び地域志向科目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 能動的授業科目有無: あり 2. 能動的授業科目種類: アクティブラーニング, プレゼンテーション 3. 地域志向科目有無: なし 4. 地域志向科目内容: -

授業年度	2017	シラバスNo	CT506A
講義科目名称	工業科教育法 I		
英文科目名称	Pedagogy in Engineering 1		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2単位	選択
担当教員	白濱 博		
開講意義目的	<p>工業教育基礎力養成:技術の進展やグローバル化など、変化の激しい状況下において、我が国がさらなる発展を図るには、グローバルな視点で物事を考え行動し変化に柔軟に対応でき、また果敢に挑戦できる人材の育成が求められている。</p> <p>そこで本講座では、工業高校が今後も我が国経済を牽引する工業界への人材輩出という大きな役割を担ってゆくことが期待されていることに鑑み、工業教育界を取り巻く状況を俯瞰しながら工業教育について考察し、創造的で有能な技術者育成のできる実践的工業教員としてその資質や基礎的能力を養う。あわせて、我が国工</p>		
授業計画	<p>1回 導入講義 1)教職への意識化(「教師」の役割・意味)について。 2)工業教育法 I の概要と講義の展開について。 3)工業教育の意義・役割について。</p> <p>2回 教職志望者取り組み事例紹介 1)新任教員研究授業・教員養成系大学模擬授業風景等教員志望各種事例等紹介。 2)「教員採用試験案内」の紹介。</p> <p>3回 工業教育の実際(I) 「課題研究」の意義・役割、実践事例紹介および発表について。</p> <p>4回 工業教育の実際(II) 学校紹介と学校要覧に見る工業教育の取り組みについて。</p> <p>5回 工業教育の実際(III) 1)新しい教育活動(各種競技大会、資格取得、産業財産権教育、地域との連携教育、地域民間技能者招聘事業等)について。 2)求められる工業教員の資質・能力について。</p> <p>6回 工業教育の実際(IV) 1)工業高校の運営組織と役割について。 2)工業教員の取り組み(各種研究会、研修等)について。</p> <p>7回 (工業)高等学校キャリア教育 1)キャリア教育全般について。 2)キャリア教育の経緯と背景について。 3)工業高校のキャリア教育と進路指導について。</p> <p>2) 我が国産業の状況と我が国工業の近代化 1)我が国産業の状況について。 2)資源・エネルギー問題等について。 3)幕末明治期の近代化と工業教育について。</p> <p>9回 戦後工業教育の変遷 戦後の工業教育と学習指導要領「工業の教育目標」の変遷について。</p> <p>10回 (新)学習指導要領(I) 『(新)高等学校学習指導要領』改訂の概要と工業教育について。</p> <p>11回 (新)学習指導要領(II) 『(新)高等学校学習指導要領(「工業」)』改訂の概要と工業教育について。</p> <p>12回 「課題研究」の発表(I) 工業教育に関しての学生各自による「課題研究」の発表。</p> <p>13回 「課題研究」の発表(II) 工業教育に関しての学生各自による「課題研究」の発表。</p> <p>14回 「課題研究」の発表(III) 工業教育に関しての学生各自による「課題研究」の発表。</p> <p>15回 企業の求める人材と工業教育 1)企業におけるもの作り人材育成・企業の求める人材について。 2)“ものづくり”と工業教育について。</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は、以下の教員養成に係る教育目標との対応科目である</p> <p>3)(知識・理解) 教科指導、生徒指導のための知識、教科等に関する専門的知識を習得する。 具体的には、現代の教育事情を把握し、その諸課題解決のための適切な方策を考え、主体的に取り組むことのできる態度を育成する。また、大学で学ぶ深化した専門領域の知識や幅広い教養を背景とし、かつ情熱と責任感と使命感をもち豊かな人間性を備えた教育者として工業教育に真摯に取り組むことのできる実践的な能力や態度を育成する。</p>		
授業の到達目標	<p>1)幅広い視点から工業教育の目的と役割、および工業教育の関連法規などの基礎的知識を習得しながら工業教育とは何かを知る。その際、今般実施の高等学校学習指導要領に明記されているキャリア教育の視点からも工業教育を俯瞰する。</p> <p>2)高校教育の組織や工業教育全体を俯瞰しながらの工業高校の教育課程等について理解し、工業教員として求められる資質や能力を身に付ける。</p> <p>3)「課題研究」に取り組むことによって情報収集能力・思考力・判断力等を培いながら、問題解決能力やプレゼンテーション能力および報告書作成能力等を身に付ける。</p>		
指導方法	<p>1)実際の工業教育現場の関連資料、「高等学校学習指導要領解説(工業編)」および各種白書等に基づき作成した教材を活用した講義展開とし、要所ごとに小テストや小論を実施する。</p> <p>2)「課題研究」は個人および複数人での取り組みとし、その成果を発表し報告書を作成する。</p>		
教科書・参考書	<p>教科書:無 参考資料: 1)自作教材(講義資料) 2)「高等学校学習指導要領解説(「工業編」)」、文部科学省 3)参考資料:「工業教育資料(実教出版)」、「内外教育(時事通信社)」、その他(各種新聞記事等)</p>		

評価方法	小論・小テスト(20%)、課題研究発表・報告書(30%)、定期試験(40%)、授業参加態度等(10%)等を総合して評価する。
受講上の注意	本講座は、高等学校一種免許状(工業)の教職に関する科目の「教職の意義等に関する科目」区分の必修科目に該当する。本講座を通して、 1)「工業教育とは何か」 2)「工業高校教員として求められる資質や能力とは何か」 等の問題意識をもちながら受講し、近い将来の教師としての基礎的・基本的な知識や資質と能力等を身に付ける。また、オフィスアワー:授業終了後に教室にて質問を受け付ける。
授業外における学習方法	1)「課題研究」の発表に向けて計画を立て、問題や課題解決に向けての手順・方法や内容等について日頃から取り組み、その成果を発表する。プレゼンテーション及び資料作成等の準備をしておくこと。 2)“工業教育はものづくり教育である”という観点で、工業科教育法Ⅱの模擬授業に向けて、授業構想をしておくこと。加えて、自己の専門領域の学習を通してものづくり力を培っておくこと。
能動的授業科目及び地域志向科目	【能動的授業の種類】:「課題研究」 学生個人或いは複数人が、工業(技術・教育)に関して何等かの問題や課題を設定し、その解決に向けて考察・議論しながら取り組む。さらに、その成果を発表し報告書を作成する。 【地域課題解決目的有無】:無

授業年度	2017	シラバスNo	CT506B
講義科目名称	工業科教育法 I		
英文科目名称	Pedagogy in Engineering 1		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2単位	選択
担当教員	浅野 繁喜		
開講意義目的	<p>工業教育基礎力養成:変化の激しい現代社会において、技術の進展やグローバル化など、我が国がさらなる発展を図るためには、よりグローバルな視点に立って物事を考えて行動し、急激な変化に柔軟に対応できる能力を身に付け、新たな課題に果敢に挑戦することのできる人材を育成することが重要である。</p> <p>そこで、本講座では、工業高校が今後も我が国の経済を牽引する工業界への人材輩出という大きな役割を担っていく必要性があることに鑑み、現在の工業教育界を取り巻く状況を俯瞰しながら工業教育について考察し、創造的で有能な技術者の育</p>		
授業計画	<p>1回 導入授業 ①教職への意識化(「教員」の意義・役割・重要性)について ②工業科教育法 I の概要と講義の展開について ③講義用教育の意義・役割・重要性について</p> <p>2回 工業教育の建築系の科目 「建築構造設計」などの意義・役割、指導法について</p> <p>3回 教職志望者の取り組み方 ①新任教員の授業実践 ②「教員採用試験案内」の紹介</p> <p>4回 工業教育の実態(I) 学校紹介と学校要覧による工業教育の取り組みについて</p> <p>5回 工業教育の実態(II) ①新しい教育活動(各種競技大会、各種の資格取得、地域との連携教育など)の取り組みについて ②求められる工業教員の資質・能力について</p> <p>6回 工業教育の実態(III) ①工業高校の運営組織とその役割について ②工業高校教員の(授業・各種研究会・研修会など)の取り組みについて</p> <p>7回 我が国の産業状況について ①我が国の産業分布などについて ②我が国の産業・資源・エネルギー問題などについて</p> <p>8回 我が国の工業近代化と工業教育 ①江戸末期・明治初期の工業の近代化について ②この時期の工業教育などについて</p> <p>9回 戦後の工業教育の変遷について 戦後の工業教育と学習指導要領「工業の教育目標」の変遷について</p> <p>10回 高等学校学習指導要領(I) 高等学校学習指導要領の概要と工業教育について</p> <p>11回 高等学校学習指導要領(II) 高等学校学習指導要領「工業編」の改訂の概要について</p> <p>12回 「建築構造設計・課題研究」の意義・役割・事例紹介及び評価などについて</p> <p>13回 「建築構造設計・課題研究」の発表(I) 工業教育に関する学生の授業発表などについて</p> <p>14回 「建築構造設計・課題研究」の発表(II) 工業教育に関する学生の授業発表などについて</p> <p>15回 企業の求める人材と工業教育 「ものづくりは人づくり教育」の考え方と工業教育などについて</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は、以下の教員養成に係る教育目標に対応する科目である。 (知識・理解)</p> <p>(1) 教科の学習指導、生徒指導のための知識及び教科などに関する専門的知識を養成する。 (2) 具体的には、現在の教育事情を把握し、その課題解決のための適切な方策を考え、教員として主体的に取り組むことができる姿勢・態度を育成する。 (3) 大学で学ぶ専門的な領域の知識や幅広い教養を背景として、教育的な情熱と責任感・使命感を持ち、豊かな人間性を兼ね備えた教育者として、工業教育に真摯に取り組むことのできる実践的な能力や態度を育</p>		
授業の到達目標	<p>(1) 幅広い視点から工業教育の目的と役割及び実際の工業教育の関連法規などの基礎的知識を習得しながら、工業教育とは何かについて探求する。 (2) 教育活動組織や教育課程などについて理解し、高等学校工業科の教員として必要な資質や能力を育成する。 (3) 「建築構造設計・課題研究」に取り組むことにより、情報収集能力・思考力・判断力などを培いながら、課題解決能力やプレゼンテーション能力及び報告書の作成能力などを育成する。</p>		
指導方法	<p>(1) 実際の工業教育現場の関連資料、高等学校学習指導要領「工業編」などに基づいて作成した教材を活用して授業展開する。 (2) 学生自身がこれまで受けてきた学校教育や自身の取り組みを振り返りながら自らの問題として考察させ、将来の教員として生徒の「学力向上」に向けての方策について小テストや小論文を課すとともに授業での発表を課す。</p>		
教科書・参考書	<p>教科書:工業高等学校建築系用の教科書「建築構造設計」 参考資料: (1) 自作教材(講義資料) (2) 高等学校学習指導要領「工業編」など (3) その他教育関連資料、各種新聞記事など</p>		
評価方法	<p>小論・小テスト(20%)、学習指導案(15%)、模擬授業(20%)、定期試験(30%)、授業参加態度等(15%)等により総合的に評価する。</p>		
受講上の注意	<p>本講座は、高等学校一種免許状(工業)の教職に関する科目の「教職の意義等に関する科目」区分の必修科目に該当する。本講座を通して、 (1)「工業教育とは何か」 (2)「工業高校教員として必要な資質や能力とは何か」 などの問題意識を持ちながら受講し、近い将来の教員としての基礎的・基本的な知識や資質・能力などを育成する。</p>		

授業外における学習方法	(1)「建築構造設計・課題研究」の発表に向けて計画を立て、問題や課題解決に向けての手順・方法や内容などについて、日常から取り組み、その成果について発表する。プレゼンテーション及び資料作成などの準備をしておくこと。 (2)「工業教育はものづくり教育である」という観点で、工業科教育法Ⅱの模擬授業に向けて、授業構想を立てておくこと。さらに、自己の専門領域の学習を通して「ものづくり力」を身に付けておくこと。
能動的授業科目及び地域志向科目	能動的授業の種類:建築科の教科指導法の発表授業

授業年度	2017	シラバスNo	CT507A
講義科目名称	工業科教育法Ⅱ		
英文科目名称	Pedagogy in Engineering 2		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	2単位	選択
担当教員	白濱 博		
開講意義目的	<p>実践的教師力養成： 変化の激しい現代社会では、変化に柔軟に対応し直面する問題や課題に果敢に挑戦する、いわゆる「生きる力」が求められている。そのために本講座では、工業教育を通して生徒に「確かな学力」を身に付けさせることのできる実践的教師の育成を目指す。 具体的には、各種の学力調査や工業教育の現状から「学力」問題を考察し学習指導要領改訂の背景を探る。その上で、学校の役割や教師に求められる資質や能力について考え、「学力向上」のための「授業づくり」について学ぶ。さらに、実際の学習指導案の作成や模擬授業を導入</p>		
授業計画	<p>1回 導入講義 1)工業科教育法Ⅱの概要について。 2)講義の展開について。 3)模擬授業について。</p> <p>2回 教育法制と工業教育の目標および教育内容 1)教育関連法と工業教育について。 2)(新)学習指導要領における「工業」の教育目標と教育内容について。</p> <p>3回 各種学力調査と学力問題 1)各種国際学力調査・全国学力調査結果について。 2)我が国児童・生徒の「学力」問題について。3)キャリア教育と学力向上の関係について。</p> <p>4回 現代の教育事情 工業高校における教育事情(生徒の実態・取り組み・成果等)について。</p> <p>5回 工業教育とキャリア教育 工業高校における学力低下問題とキャリア教育について。</p> <p>6回 「授業づくり」と「模擬授業」 1)「授業づくり」の方法について。 2)「模擬授業」について。</p> <p>7回 学習指導案の作成 学習指導案の様式と書き方について(実際の指導案紹介と合わせて)。</p> <p>8回 学習指導案の作成 学習指導案の作成演習。</p> <p>9回 学習指導案の作成 学習指導案の作成演習。</p> <p>10回 学習指導案と模擬授業 1)講師による模擬授業の学習指導案についての説明。 2)講師による模擬授業の実践。</p> <p>11回 模擬授業と授業評価 学習指導案をもとにした学生各人の模擬授業と授業評価。</p> <p>12回 模擬授業と授業評価 学習指導案をもとにした学生各人の模擬授業と授業評価。</p> <p>13回 模擬授業と授業評価 学習指導案をもとにした学生各人の模擬授業と授業評価。</p> <p>14回 教材・教具の開発と実践例 1)ものづくり基盤技術振興基本法について。 2)“ものづくり”教育について。 3)工業高校における教師の“ものづくり力”(教材・教具の開発)について。</p> <p>15回 これからの工業教育と求められる工業教員像 1)これからの工業教育について。 2)これからの工業教員に求められる資質・能力について。</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は、以下の教員養成に係る教育目標との対応科目である 3)(知識・理解) 教科指導、生徒指導のための知識、教科等に関する専門的知識を習得する。 具体的には、現代の教育事情を把握し、その諸課題解決のための適切な方策を考え、主体的に取り組むことのできる態度を育成する。また、大学で学ぶ深化した専門領域の知識や幅広い教養を背景とした、かつ情熱と責任感と使命感をもち豊かな人間性を備えた教育者として工業教育に真摯に取り組むことのできる実践的な能力や態度を育成する。本講座では、主に「授業づくり」について考察し、</p>		
授業の到達目標	<p>1) 工業教育現場の実情を知ることにより、幅広い視点で教科指導および生徒指導のできる教員として資質と能力を養う。 2) 学習指導案作成と模擬授業を通して実践的能力を身に付ける。 3) 工業教育は“ものづくり教育”であることを理解し、工学を背景とした“ものづくり(教材・教具の開発)”のできる技術力の必要性和重要性を理解する。</p>		
指導方法	<p>1) 各種学力調査結果や教育現場の現状を紹介し「学力」問題について考えさせる。その上で、学生自身がこれまで受けてきた学校教育や自身の取り組みを振り返りながら自らの問題として考察させ、将来の教師として生徒の「学力向上」に向けての方策について小論と発表を課す。 2) 「学力向上」のためにはまずは教師の高い「授業力」が求められていることを再認識させ、その上で「学習指導案の作成」と「模擬授業」を導入し実践力を身に付けさせる。 3) 工業教育はものづくり教育であるという観点から、教師自身の“ものづくり”力の必要性和</p>		
教科書・参考書	<p>教科書：無 参考資料： 1) 講師自作教材(講義資料) 2) 「高等学校学習指導要領解説(工業編)」、文部科学省 3) 「工業教育資料(実教出版)」、「内外教育(時事通信社)」、その他(各種新聞記事等)</p>		

評価方法	小論・小テスト(20%)、学習指導案(20%)、模擬授業(20%)、定期試験(30%)、授業参加態度等(10%)等により総合的に評価する。
受講上の注意	<p>本講座は、高等学校一種免許状(工業)の教職に関する科目の「教職の意義等に関する科目」区分の必修科目に該当する。本講座を通して、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「学力問題」及び学力向上の方策について、自身の高校生時代を振り返るなど問題意識をもって臨むこと。 2) 教育実習や教員採用試験においては学習指導案の作成と模擬授業が課せられる。そのことを想定しながら本講座に臨み、「授業づくり」全般について意識化しておくこと。 3) オフィスアワー: 授業終了後に教室にて質問を受け付ける。
授業外における学習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1) 本講座後半では、学習指導案の作成と模擬授業を行う。よって、自らの授業をイメージしながら十分時間をかけて構想しておくこと。 2) “工業教育はものづくり教育である”という観点で、自己の専門領域において“ものづくり”力を培っておくこと。
能動的授業科目及び地域志向科目	<p>【能動的授業の種類】:「模擬授業」 工業技術教育に関しての授業を構想し、学習指導案を準備する。さらに、授業実践と講師と学生による評価等一連の活動を通して授業力を身に付ける。 【地域課題解決目的有無】:無</p>

授業年度	2017	シラバスNo	CT507B
講義科目名称	工業科教育法Ⅱ		
英文科目名称	Pedagogy in Engineering 2		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	2単位	選択
担当教員	浅野 繁喜		
開講意義目的	<p>(1) 急激に変化する現代社会において、子どもたちが育つ社会変化に加え、産業・経済の構造変化、雇用の多様化・流動化などは、子どもたちの将来のとらえ方にも大きな変化をもたらしている。このような変化に柔軟に対応できる能力、いわゆる「生きる力」を今、子どもたちが身に付け社会の激しい変化に流されることなく、直面する問題や課題に柔軟かつたくましく対応し、社会人として自立していくことができるようにする教育が強く求められている。</p> <p>(2) そのために本講座では、工業教育を通して生徒に「確かな学力、豊かな人間性、健康・体力</p>		
授業計画	<p>1回 導入授業 (1)?工業科教育法Ⅱの概要について。 (2)?講義の展開について。 (3) 模擬授業について。</p> <p>2回 明治日本の産業革命遺産から学ぶ (1)?北九州の工業近代化への礎(重工業奇跡の発展)と工業教育について。 (2)?幕末・明治の産業革命遺産について。 (3) 幕末・明治の産業革命遺産から学ぶべきこと。</p> <p>3回 高等学校における工業技術教育の役割と課題 (1) 学校教育と教師の役割。(2) 高等学校教育の現状と課題。(3) 工業技術教育の課題と活性化。(4) 工業技術教育の歩み</p> <p>4回 工業高等学校教育について (1) 学校教育と教師の役割。 (2) 高等学校教育の現状と課題。 (3) 工業技術教育の課題と活性化。 (4) 工業技術教育の歩み</p> <p>5回 工業高等学校における教育事情① (多くの工業高等学校に見る生徒の実態・取り組み・成果等)について。</p> <p>6回 工業高等学校における教育事情② (先進的な工業高等学校に見る生徒の実態・取り組み・成果等)について。</p> <p>7回 キャリア教育の必要性和意義 (1) キャリア教育が必要となった背景と課題 (2) キャリア教育の定義 (3) 職業観・勤労観を育む学習プログラム (4) 工業教育におけるキャリア教育</p> <p>8回 「授業づくり」と「模擬授業」 (1) 「授業づくり」の方法について (2) 「模擬授業」について</p> <p>9回 学習指導案の作成① 学習指導案の様式と書き方について</p> <p>10回 学習指導案の作成② 学習指導案の作成演習</p> <p>11回 学習指導案と模擬授業 (1) 講師による模擬授業と学習指導案についての説明 (2) 講師による模擬授業の実践方法の提示</p> <p>12回 模擬授業と授業評価 学習指導案をもとにした学生の模擬授業と授業評価</p> <p>13回 教材・教具の開発と実践例 (1) 工業高等学校における「ものづくり教育」について (2) 工業高等学校における「教師のものづくり力」(教材・教具の開発力) (3) 人権意識を磨き、モラルの高い教師たれ</p> <p>14回 これからの工業教育と求められる工業教員像 (1) これからの工業教育について (2) これからの工業教員に求められる資質・能力について</p> <p>15回 教育実習と教員採用試験の取り組み (1) 教育実習への取り組みについて (2) 学習指導案の作成と生徒理解について (3) 教育実習生としての心得 (4) 教員採用試験の取り組み</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>(1) 本授業は、以下の教員養成に係る教育目標との対応科目である。教科指導、生徒指導のための知識、教科に関する専門的知識を養成する。</p> <p>(2) 具体的には、現代の教育事情を把握し、その諸課題解決のための適切な方策を考え、主体的に取り組むことのできる態度を育成する。また、大学で学ぶ深化した専門領域の知識や幅広い教養を背景とした、かつ情熱と責任感と使命感をもち豊かな人間性を兼ね備えた教育者として工業教育に真摯に取り組む実践的な能力や態度を育成する。</p> <p>(3) 本講座では、主に「授業づくり」について考察し、模擬授業の</p>		
授業の到達目標	<p>(1) 工業教育現場の実情を知ることにより、幅広い視点で教科指導および生徒指導のできる教員として資質と能力を養う。</p> <p>(2) 学習指導案作成と模擬授業を通して実践的能力を身に付ける。</p> <p>(3) 工業教育は「ものづくり教育」であることを理解し、工学を背景とした「(教材・教具の開発=ものづくり)」のできる技術力の必要性和重要性を理解する。</p>		
指導方法	<p>(1) 各種学力調査結果や教育現場の現状を紹介し「学力」問題について考えさせる。その上で、学生自身がこれまで受けてきた学校教育や自身の取り組みを振り返りながら自らの問題として考察させ、将来の教師として生徒の「学力向上」に向けての方策について小論と発表を課す。</p> <p>(2) 「生徒の学力向上」のためには、まず教師の高い「授業力」が求められることを再認識させ、その上で「学習指導案の作成」と「模擬授業」を導入し実践力を身に付けさせる。</p> <p>(3) 工業教育はものづくり教育であるという観点から、教師自身の「ものづくり」力の</p>		
教科書・参考書	<p>(1) 講師自作教材(講義資料)</p> <p>(2) 「高等学校学習指導要領解説(工業編)」, 文部科学省</p> <p>(3) 「工業教育資料(実教出版)」、「内外教育(時事通信社)」, その他(各種新聞記事等)</p>		

評価方法	小論・小テスト(20%)、学習指導案(15%)、模擬授業(20%)、定期試験(30%)、授業参加態度等(15%)等により総合的に評価する。
受講上の注意	本講座は、高等学校一種免許状(工業)の教職に関する科目の「教職の意義等に関する科目」区分の必修科目に該当する。本講座を通して、 (1) 教師として、どのようなことを学習すれば、資質や能力の向上に繋がるのかを常に考え、日頃からマスコミ等で話題になる教育問題に関心を持ち、学習に対する課題意識を持って受講すること。 (2) 「学力問題」及び学力向上の方策について、自身の高校生時代を振り返るなど課題意識を持って受講すること。 (3) 教育実習や教員採用試験においては学習指導案の作成と模擬授業が課せられる。そのこ
授業外における学習方法	(1) 本講座後半では、学習指導案の作成と模擬授業を行う。よって、自らの授業をイメージしながら十分時間をかけて構想しておくこと。 (2) 「工業教育はものづくり教育である」という観点で、自己の専門領域において「ものづくり力」を培っておくこと。
能動的授業科目及び地域志向科目	【能動的授業の種類】:「模擬授業」工業技術教育についての授業を構想し、学習指導案を準備する。さらに、授業実践と講師と学生による評価等一連の活動を通して授業力を身に付ける。 【地域課題解決目的の有無】:無

授業年度	2017	シラバスNo	CT508A
講義科目名称	情報科教育法 I		
英文科目名称	Pedagogy in Information Science 1		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2単位	選択
担当教員	亀井 圭史		

開講意義目的	<p>高等学校では平成25年度から、新学習指導要領が学年進行で実施される。今次の改正にて、共通教科「情報」は、科目構成が「社会と情報」、「情報の科学」の2科目に改善された。改善された教科「情報」の科目構成のねらいやその意味を考察して情報技術の必要性や将来展望を解説する。また、教育基本法の理念を具現化した国や県の教育改革の動向や実際に授業を行う上で必要な学習指導案の作成と指導方法等について学び、将来高校の教員として自らが情報の各分野においてその本質を理解するとともに、それを生徒に効果的に指導する教科指導力を身に</p>		
授業計画	1回	<p>教員免許、教科「情報」の取得に当たって</p> <p>① 教職の道を志すに当たり、本県高等学校の現状と課題及び情報化、国際化、少子化等の進展に対応した本県の高等学校教育改革の視点や福岡の教育ビジョン等を事前学習する。</p> <p>② 平成27年度九州各県の教員採用試験実施要項に示された各県が求める教師像をインターネットで検索して教師として必要な資質を整理し、自らが目指す教師像を考えさせる。</p>	
	2回	<p>「情報科教育法 I」講義ガイダンスとプレゼンテーション(3分間スピーチ)</p> <p>① 講義の目的・進め方、受講上の注意、成績評価等についてガイダンスを行う。また、教科「情報」の免許取得の理由やセールスポイントも含め自らの気持ちを3分間にまとめてプレゼンを行い、自己表現する。併せて、教育に特化した学習(教育)コーチング及びコーチング手法を用いた演習を行う。</p> <p>② 本講座のねらいとして、教科「情報」設置のねらいと効果的な指導方法及び教育実習対策並びに教員採用試験対策を主に講じる。</p>	
	3回	<p>教育概論について</p> <p>① ウィリアム・アーサー・ワードの教師像について</p> <p>② 人の心が運命を変える。— インドヒンズ教の教典から —</p> <p>③ キャリア教育について</p> <p>④ 進路を考えるということとは？</p> <p>⑤ 生徒の学習意欲を喚起するキーワードについて</p>	
	4回	<p>演習その1 (教科「情報」の総復習及び教員採用試験対策)</p> <p>① 高校時代に既習したコンピュータのハード・ソフトに関する基本的な知識、情報通信ネットワークや情報モラルとセキュリティー等情報化社会の光と影について、DVD教材や演習問題を解きながら教科「情報」の教科内容を復習する。併せて、情報教育が変わると題したクラウドコンピューティングについて解説する。</p> <p>② 福岡県の教員採用試験の過去問(教職教養、専門教科「情報」)を解き、傾向と対策を整理する。</p>	
	5回	<p>演習その2</p> <p>① 前時に引き続き、教科「情報」の教科書の内容を演習問題を解きながら理解を深める。</p> <p>② 併せて、本県の教員採用試験一次試験及び他県で実施している専門教科「情報」の過去問を解きながら傾向と対策を講じる。</p>	
	6回	<p>国の教育改革の動向について</p> <p>① 今日の教育改革の根底をなしている、教育再生会議の第一次報告(平成19年1月)を解説し 国の教育改革の流れを解説する。</p> <p>② 平成18年に60年振りに改正された「教育基本法」の改訂の趣旨を「旧法」と比較して解説する。</p> <p>③ 教育基本法の改正を受けて成立した教育改革関連三法及び学習指導要領の改訂の理念等を解説する。</p>	
	7回	<p>「情報の科学」の2科目に改善されたその趣旨についても解説する。</p> <p>教科「情報」の設置の経緯及び科目構成について</p> <p>① 情報教育のねらいを実現するために設置した教科「情報」の設置の経緯と科目構成の特色を概観し その目標や内容について解説する。(旧学習指導要領にて解説)</p> <p>② 新学習指導要領が教科「情報」について、「社会と情報」、「情報の科学」の2科目に科目構成を見直した経緯、趣旨について解説する。</p>	
	8回	<p>教科「情報」の履修形態について</p> <p>① 履修学年について、② 共通科目「情報」の学校選択か生徒選択かについて、③ 普通教科「情報」を学校設定科目で代替ができるか、④ 情報に関する小・中学校の既習内容は、⑤ 生徒のコンピュータに関する技量差への対応と評価は、⑥ 筆記テストは必要か、⑦ 個人情報に関する判断基準等について解説する。</p>	
	9回	<p>教科「情報」の指導計画及び学習(授業)評価の基本的な考え方について</p> <p>① 教科「情報」の各科目の単元に沿って、評価の概要、評価の機能、新しい学力観に基づいた評価の基本的な考え、評価を工夫するに当たって注意すべき事項、指導と評価の一体化等について学習を深める。</p>	
	10回	<p>教育課程と年間指導計画、シラバス、学習指導案について</p> <p>① 教科「情報」の年間指導計画やシラバスの作成に当たって求められる学力と評価、年間指導計画の意義や作成に当たっての配慮事項及び作成の手順について学習する。</p> <p>② 年間指導計画とシラバスの相違点、学習指導案との関連について学習する。</p>	
	11回	<p>学習指導案作成の手順について</p> <p>① 授業を展開するための学習指導案の作成を通して、教科「情報」は学問としての情報学を知識として学ぶのではなく、問題を解決する際に物事を論理的に分析し、問題解決に役立つ情報活用の実践力を育成することの大切さを理解する。</p> <p>② 福岡県教育委員会が示す、学習指導案の形式を参考に学習指導案の手順を解説する。</p>	
	12回	<p>新学習指導要領に準拠した教科書「社会と情報」をモデルにした学習指導案の作成について</p> <p>① 新科目「社会と情報」の教科書を参考に、ある単元について、模擬授業を想定した学習指導案を作成する。</p> <p>② 情報技術の活用という観点から単元のねらいに沿った授業計画や模擬授業を行う際のきめ細かな配慮や心構えなどを反映した指導案づくりについて理解を深める。</p>	
	13回	<p>課題演習その I (学習指導案の作成)</p>	

	<p>① 前時に作成した学習指導案をチェック(点検)するとともに加筆・修正を行い指導案を完成する。</p> <p>② 教科書の単元に沿った学習計画であるか。また、生徒の学習への興味・関心、意欲・態度を喚起する授業計画となっているか。授業の進め方(学習の展開)の工夫などを勘案しながら作業を進める。</p> <p>14回 課題演習その2 (学習指導案のパソコン入力)</p> <p>① 前時に手づくりした学習指導案をパソコン入力する。</p> <p>② 完成した指導案を他の受講生と比較検討し、合評する。</p> <p>③ 指導案を提出し、評価を受ける。</p> <p>15回 「情報科教育法Ⅰ」のまとめ</p> <p>「情報科教育法Ⅰ」を復習・整理する。</p> <p>(注)①「情報科教育法Ⅰ」では、平成15年度から全ての高校生に必修として設置された教科「情報」の設置のねらいを理解するため旧学習指導要領を中心に授業を組み立てる。</p> <p>② 平成25年4月から高等学校で導入した新学習指導要領の詳細は「情報科教育法Ⅱ」で解説する。</p>
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	九州各県が求める教師像を集約すると、①教師としての使命感、②実践的指導力、③幅広い知見の3点に集約される。本講座を通じて、豊かな人間性に根ざした倫理観、幅広い教養、理論と実践を結びつける実践的な指導力を身に付けるとともに、教育者としての使命感と責任感、適切な社会性や協調性を持ち、主体的に行動できる能力を修得する。本授業は以下の教育目標との対応科目である。3)専門的知識・技術の活用力:教科指導、生徒指導のための知識及び教科等に関する専門的知識を修得し、工業技術やデザインに関する知識・技能を教授すること
授業の到達目標	次の3点を授業の到達目標とする。
指導方法	① 4年次に実施する教育実習において、新科目「社会と情報」、「情報と科学」の科目構成・内容を理解して、生徒に効果的に指導する教科指導力を身に付ける。
教科書・参考書	教科書:「情報」教科書、「高校社会と情報」及び「最新情報の科学」の2冊、著者:岡本俊雄・山際 隆、実教出版 「高等学校学習指導要領(情報編)」著作権所有:文部科学省 発行者:開隆堂出版株式会社 参考書:なし
評価方法	以下の4点を総合的に評価する。
受講上の注意	① 定期試験(40%) ② 受講への興味・関心、意欲・態度、技能表現(20%) ③ 模擬授業やプレゼンテーション(25%) ④ パソコン実習参加・態度及び課題演習(作品制作)の提出物(15%)
授業外における学習方法	日頃から情報技術の進展や国及び県の教育改革の動向、教育情報等について、興味・関心をもって情報収集・分析を行い、その本質を理解する能力・態度を養う。 教職関係:本講義は、高等学校一種免許状(情報)の教職に関する科目の「教育課程及び指導法に関する科目」区分の必修科目に該当する。
授業外における学習方法	高校授業「情報」の教科書を読み、内容を理解すること。
能動的授業科目及び地域志向科目	1. 能動的授業科目有無:無 2. 能動的授業科目種類:- 3. 地域志向科目有無:無 4. 地域志向科目種類:-

授業年度	2017	シラバスNo	CT509A
講義科目名称	情報科教育法Ⅱ		
英文科目名称	Pedagogy in Information Science 2		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	2単位	選択
担当教員	亀井 圭史		

開講意義目的	<p>前期に学習した「情報科教育法Ⅰ」をベースに、高等学校において平成25年度から学年進行で実施される新しい学習指導要領の基本方針やねらいを中心に改善された、教科「情報」が示す各単元の目標と内容並びに指導とその取り扱いを解説する。後半は「社会と情報」の教科書を中心に、模擬授業を想定した学習指導案の作成と模擬授業を展開し、4年次の教育実習に対応する。また、個人がテーマを決めてこれまで身につけた情報技術の集大成として、マルチメディアを活用した作品を制作し、プレゼンテーションを行い総合評価を行うなど情報活用の実践</p>		
授業計画	1回	<p>「情報科教育法Ⅱ」のガイダンス及び教師の資質能力の向上について</p> <p>① 情報科教育法Ⅱの授業の進め方をシラバスで確認する。 ② いま求められる教師の資質能力について、教師の底力、理想の教師像、学習指導要領の理念である知育・徳育・体育と「生きる力」の整合性や増加する教育課題等を解説し教職を目指す受講生の認識を深める。</p> <p>及び増加する教育課題等について解説し、教職を目指す受講生の認識を深める。</p>	
	2回	<p>「情報科教育法Ⅰ」の復習及びマルチメディアを活用した作品制作について事前予告を行う</p> <p>① 学習指導要領が平成11年の改訂により、平成15年度から高等学校において、必履修として新設した教科「情報」の設置の経緯やねらいを再認識する。 ② 平成21年3月に改訂された新学習指導要領が「情報A・B・C」も科目構成を見直し、「社会と情報」、「情報の科学」の2科目に改善した理由とねらいを復習する。 ③ マルチメディアを活用した作品を制作して、後日紹介する旨を予告予告通知する。</p>	
	3回	<p>改正された学習指導要領の解説</p> <p>① 改訂の経緯・趣旨 ② 改正の要点 ③ 改善された教科「情報」の内容を教科目である「情報A・B・C」と対比しながら考察する。 ④ 情報教育の目標である「情報活用の実践力」、「情報の科学的な理解」、「情報社会に参画する態度」の3観点をどのようにバランス良く育成するか解説する。</p>	
	4回	<p>情報活用の実践力について</p> <p>① 情報通信ネットワークにおける検索システム、既存のデータベース、電子百科事典などを活用した検索活動を中心に課題の解決に必要な情報を効率的に検索・収集するための方法を学習する。 ② 新科目、「社会と情報」、「情報の科学」の各単元の内容を考察する。</p>	
	5回	<p>情報の科学的な理解について ①コンピュータの発達と仕組み ②アルゴリズムによる問題解決</p> <p>① コンピュータの発達（歴史）及びアルゴリズムとプログラムについて ② コンピュータを活用した実習を通して、解決すべき課題の内容に応じて、アルゴリズムを適切に選択し、改善していくことの重要性を理解する。</p>	
	6回	<p>情報社会に参画する態度の指導例（情報社会の光と影）</p> <p>① 情報社会が果たしている役割などの情報社会の光とネットワークの影の部分や情報モラルについて学習する。その際、情報化の「影」の部分については、それを克服していくための心構えや様々な工夫について考える。 ② 教育現場に導入が検討されているクラウドコンピューティングについて解説する。</p>	
	7回	<p>課題演習Ⅰ（パソコン実習） 通信文の作成等</p> <p>① 教師が発出する公文書の形式を、福岡県文書管理規定を参考に解説する。 ② 教科「情報」の教科書を参考にワードによる通信文及び広告チラシの作成並びに教員が発出する公文書を作成する。 ③ マルチメディアを活用した作品制作の仕込みを行う。</p>	
	8回	<p>課題演習の2（パソコン実習）「社会と情報」、「情報の科学」の教科書をモデルにした学習指導案の作成</p> <p>① 模擬授業を想定した学習指導案作成の意義、目的や作成方法・手順について考察する。 ② 改善された教科書をモデルに学習指導案を作成する。特に、教科書の単元に沿った学習計画となっているか、授業の進め方（展開）に無理・無駄がないか等について配慮する。</p>	
	9回	<p>課題演習の3（パソコン実習） 模擬授業を想定した学習指導案の作成及びマルチメディアを活用した作品制作</p> <p>① 教科書の各単元が示す求められる学力と評価、教科「情報」が目標とする3観点をバランス良く育成した内容となっているかなど指導案作成の意義や配慮事項を念頭において、前時に引き続き学習指導案を作成する。 ② 並行して課題制作であるマルチメディアを活用した作品の制作を行う。</p>	
	10回	<p>模擬授業対策（新しい学力観に基づく授業展開の基礎・基本、模擬授業実施の心構え）</p> <p>① 新しい学力観に基づいた観点別学習状況による評価及び指導と評価の一体化について理解を深める。 ② 模擬授業を行う際のきめ細かな配慮や心構え等について、新しい学力観に基づいた指導の基礎・基本をまとめた、「実践教師の心得帳（教師の心得15箇条）」を解説する。</p>	
	11回	<p>発表会Ⅰ（模擬授業、制作した作品の発表及び合評会）</p> <p>① 作成した学習指導案に沿って模擬授業を行う。 ② 個人がテーマを決めてマルチメディアを活用して作成した作品の発表を行う。 ③ 個人発表について他の受講生が評価し合評会を行う。</p>	
	12回	<p>発表会Ⅱ（前時に続き、模擬授業及び制作した作品を発表及び合評会）</p> <p>① 前時に引き続き、作成した学習指導案に沿った模擬授業の実施と制作した作品の発表を行う。 ② 合評会を受講生と行い、実践的指導力を身に付ける。</p>	
	13回	<p>課題演習3「情報科教育法Ⅱ」のまとめ（Ⅰ）</p> <p>① 教科「情報」の高校教科書の各単元の内容について、演習問題を通じて理解を深める。 ② 問題解決の手順・方法、サイバー犯罪、知的財産権、プレゼンテーション、情報化の光と影、社会生活の変化、情報システム等について、演習問題を通じて理解を深める。</p>	
	14回	<p>課題演習3「情報科教育法Ⅱ」のまとめ（Ⅱ）</p> <p>前時に引き続き、高校教科書「社会と情報」、「情報の科学」の各単元の内容について、演習問題を通じて理解を深める。</p>	
	15回	<p>「情報科教育法Ⅱ」の整理</p>	

	<p>①「情報科教育法Ⅱ」の復習と整理及び後期試験について</p> <p>② 課題演習(通信文・公文書、学習指導案)の提出</p>
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は以下の教育目標との対応科目である。3)専門的知識・技術の活用力:教科指導、生徒指導のための知識及び教科等に関する専門的知識を修得し、工業技術やデザインに関する知識・技能を教授することができる。
授業の到達目標	<p>① 教育実習で指導する新科目「社会と情報」、「情報の科学」の科目構成・内容を理解して、生徒に効果的に指導する教科指導力を身につけ、自信と誇りを持って教壇に立てるよう学習を深める。</p> <p>② 教育実習対策として、模擬授業を想定し、教科書の単元のねらいに沿った学習指導案の作成及び模擬授業を行う際のきめ細かな配慮や心構えなど、福岡県教育センターが発行した「実践教師の心得帳」を参考に理解を深める。</p> <p>③ 近年の教育改革の動向や諸課題を理解し、教師としての必要な資質能力を身に付ける。</p>
指導方法	<p>① 新科目、教科「情報」の教科書、「社会と情報」及び「情報の科学」の学習指導法について、教科指導の実践的指導力を身につける講義及び実習を展開する。</p> <p>② 教科「社会と情報」の高等学校教科書をモデルに、年間指導計画やシラバス、模擬授業を想定した学習指導案を作成し、模擬授業を行い学生が相互に授業評価を行う。</p>
教科書・参考書	<p>教科書:「情報」教科書、「高校社会と情報」及び「最新情報の科学」の2冊、著作者:岡本俊雄・山際 隆、実教出版</p> <p>「高等学校学習指導要領(情報編)」著作権所有:文部科学省 発行者:開隆堂出版株式会社</p> <p>参考書:なし</p>
評価方法	<p>① 定期試験(40点)</p> <p>② 受講への興味・関心、意欲・態度、模擬授業や教育に関する時事問題等に対するコミュニケーションやプレゼンテーション力(20点)</p> <p>③ 実習の参加・態度及び課題の提出(10点)</p> <p>④ 個々人が身につけた情報技術の集大成、マルチメディアによる作品の制作及びプレゼンテーション(30点)</p>
受講上の注意	<p>日頃から情報技術の進展や国及び県の教育改革の動向、教育情報等について、興味・関心をもって情報収集・分析を行い、その本質を理解する能力・態度を養う。</p> <p>教職関係:本講義は、高等学校一種免許状(情報)の教職に関する科目の「教育課程及び指導法に関する科目」区分の必修科目に該当する。</p>
授業外における学習方法	模擬授業の準備を行うこと。
能動的授業科目及び地域志向科目	<p>1. 能動的授業科目有無:有</p> <p>2. 能動的授業科目種類:模擬授業</p> <p>3. 地域志向科目有無:無</p> <p>4. 地域志向科目種類:-</p>

授業年度	2017	シラバスNo	CT510A
講義科目名称	道徳教育の研究		
英文科目名称	Moral Education		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2単位	選択
担当教員	田代 武博		
開講意義目的	少子化や都市化など、現代社会のさまざまな変化を背景として、生徒の徳育・心の教育を充実させることの重要性が指摘されている。この科目では、生徒たちの「生きる力」「生き抜く力」の一角をなす豊かな心や社会性を育むための道徳教育の指導法を修得することを目的とする。		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・道徳教育の必要性 ①授業全体の流れと受講上の注意、評価などについての説明 ②受講者各人が受けてきた道徳教育をふりかえり、その必要性を再確認する。</p> <p>第2回 道徳教育の歴史(戦前) 第二次大戦までの道徳教育の流れをおさえる。</p> <p>第3回 道徳教育の歴史(戦後) 第二次大戦後、今日までの道徳教育の流れをおさえる。</p> <p>第4回 教育課程全体と道徳教育 教育課程の各領域において行われる道徳教育について、それぞれの特徴を学ぶ。</p> <p>第5回 発達と道徳教育(道徳教育の評価) 道徳的発達の理論と、道徳の評価法について学ぶ。</p> <p>第6回 道徳教育の指導計画と指導案・教材論 いくつかの指導案に学びながら、指定単元についての指導案づくりを行う。</p> <p>第7回 実践例に学ぶ 中学校の道徳の時間の事例から学ぶ。</p> <p>第8回 教材研究Ⅰ 読み物教材の使い方を互いに素材を持ち寄り検討する。</p> <p>第9回 教材研究Ⅱ 前回と同様の趣旨で、共通教材の使い方を各自が考え、議論する。</p> <p>第10回 教材研究Ⅲ 読み物教材を使用せずにすすめる場合の教材について考える。 模擬指導についての注意事項を伝える。</p> <p>第11回 模擬授業 ①単元進行計画および指導案の構想発表、②模擬授業、③ふりかえりの順に受講者全員が模擬授業を行う。(模擬授業を実施しないときは生徒役となる。)</p> <p>第12回 模擬指導 ケースを想定して、LHR.SHRでの模擬指導を行う。 [レポート課題提示]</p> <p>第13回 道徳教育と心の教育 心の教育と道徳教育の関係について学ぶ。</p> <p>第14回 道徳教育の今日的課題 今日の社会情勢とのかかわりで道徳教育の新たな課題を捉える。 (情報化社会でのいわゆる情報モラル等) [レポート提出]</p> <p>第15回 まとめ 14回の内容をふりかえり、受講者各人の道徳教育指導者としての課題を打ちたてる。 [レポート解説]</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は以下の教育目標との対応科目である。</p> <p>1)豊かな人間性と社会人基礎力:豊かな人間性に根ざした倫理観、幅広い教養、理論と実践を結びつける学習姿勢を身につけ、教育者としての使命感と責任感、適切な社会性や他者との協調性をもち、主体的に行動することができる。【主体性・協働して学ぶ態度】</p> <p>2)創意工夫力・問題解決力:現代の教育をめぐる多種多様な問題について理解し、情報技術・コミュニケーション力を備え、創意工夫しながら課題解決に取り組むことができる。【思考・判断・表現】</p> <p>3)専門的知識・技術の活用力:教科指導。</p>		
授業の到達目標	道徳教育の理論、歴史、評価法などについての基礎知識を習得し、教材研究や模擬指導を通じて、生徒の道徳的課題に対応する(生徒の道徳的実践力涵養を支援する)ためのさまざまな実践的指導力を身につける。		
指導方法	この時間は基本的に講義形式で進められるが、適宜、受講者が主体的に活動する場面が用意される。特に後半は受講者の主体的活動の比重が増すと心得ておくこと。		
教科書・参考書	<p>教科書:『中学校学習指導要領解説道徳編』, 文部科学省。</p> <p>参考書:授業中に随時、紹介する。</p> <p>また、適宜、読み物教材プリントやワークシートを配布するので、ファイルを用意すること。</p>		
評価方法	授業参加・態度および成果発表【50%】、レポート【50%】の総合評価とする。		
受講上の注意	<p>教職関係:本講義は、中学校一種免許状(数学)の教職に関する科目の「教育課程及び指導法に関する科目」区分の必修科目に該当する。</p> <p>・科目の性質上、教師としての適性に著しく欠ける受講者がいると考えられた場合、他の受講者や他教員からの参考意見等を十分聴取した上で、当該受講者に対して履修のとりやめを勧告する場合がある。</p>		
授業外における学習方法	<p>・模擬授業を行う前に十分な予習が求められる。その手立てについては、授業内で予告する。</p> <p>・日頃から、ボランティア活動や読書、映画・芸術作品の鑑賞など、自分の心を豊かにする努力を重ねること。</p>		
能動的授業科目及び地域志向科目	<p>1. 能動的授業科目有無:あり</p> <p>2. 能動的授業科目種類:アクティブラーニング(指導案作成、模擬授業、集団討論等)</p> <p>3. 地域志向科目有無:なし</p> <p>4. 地域志向科目内容:ー</p>		

授業年度	2017	シラバスNo	CT511A
講義科目名称	教育実習 I		
英文科目名称	Teaching Internship I		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中講義	4年	2単位	選択
担当教員	田代 武博		
開講意義目的	中学校教員免許状を取得することを希望する者が、3週間にわたり、指導教員その他の教員の指導を受け、校務全般にかかわる実習をおこなうことによって、教員として必要とされるさまざまな実践力を養うことを目的とする。		
授業計画	<p>① 実施内容 本授業は15時間では編成されない。3週間、指定された日時に「勤務」すること。 以下(②～⑮)に、内容項目を示す。</p> <p>② 校務全般に関すること 校務処理についての学習</p> <p>③ 授業参観に関すること(専門教科) 専門教科についての学習指導見学</p> <p>④ 授業参観に関すること(専門教科以外) 専門教科以外の教科についての学習指導見学</p> <p>⑤ 授業実施に関すること(専門教科) 専門教科についての学習指導実施</p> <p>⑥ 授業実施に関すること(専門教科以外) 専門教科以外の教科および特別活動(学級活動)についての学習指導実施</p> <p>⑦ 研究授業の参観に関すること 指導教員その他の研究授業の見学</p> <p>⑧ 査定授業の実施に関すること 査定授業の実施</p> <p>⑨ 生徒指導に関すること 学校の教育活動全般における生徒指導の実施</p> <p>⑩ 学級経営に関すること 配置された学級における学級経営の見学ならびに実施</p> <p>⑪ 生徒会活動に関すること 生徒会活動における学習・活動に対する指導の実施</p> <p>⑫ 部活動等の課外活動に関すること 部活動等の課外活動における学習・活動に対する指導の実施</p> <p>⑬ 学校行事への参加に関すること 学校行事への参加ならびに協力の実施</p> <p>⑭ 清掃等学校裁量時間に関すること 清掃等学校裁量時間における学習・活動への指導の実施</p> <p>⑮ 校務分掌に関すること 校務分掌に対する理解と協力</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は以下の教育目標との対応科目である。</p> <p>1)豊かな人間性と社会人基礎力:豊かな人間性に根ざした倫理観、幅広い教養、理論と実践を結びつける学習姿勢を身につけ、教育者としての使命感と責任感、適切な社会性や他者との協調性をもち、主体的に行動することができる。【主体性・協働して学ぶ態度】</p> <p>2)創意工夫力・問題解決力:現代の教育をめぐる多種多様な問題について理解し、情報技術・コミュニケーション力を備え、創意工夫しながら課題解決に取り組むことができる。【思考・判断・表現】</p> <p>4)実務型技術者としての実践力:教育に関</p>		
授業の到達目標	校務全般にわたり、教師として必要とされる最低限の実践的な資質・能力・態度を身につける。		
指導方法	それぞれの実習受入校で、授業参観の指導・授業実施の指導・作業の指導・校務処理の指導その他校務全般にかかわる指導を受ける。		
教科書・参考書	教科書:各校により指定された教科書・その他の教材を使用すること。 参考書:同上		
評価方法	評価項目:その他(100%) ①教科に関する科目担当教員および実習受入校の指導教員による評価【40%】、②「教育実習日誌」の記述内容(指導教員の評語を含む)やヒアリング等に基づく教職に関する科目担当教員による評価【60%】、の2項目による総合評価。 「教育実習日誌」を必ず提出すること。		
受講上の注意	教職関係:本実習は、中学校一種免許状(数学)および高等学校一種免許状(数学)の教職に関する科目の「教育実習」区分の選択必修科目【必修科目(中学校の場合)および選択科目(高等学校の場合)】に該当する。		
授業外における学習方法	実習期間中は、宅習のための時間を割きづらくなることが多い。したがって、特に、受入校における事前打ち合わせから実習開始までの間に、十分な教材研究・指導案作成を行っておくこと。		
能動的授業科目及び地域志向科目	<p>1. 能動的授業科目有無:あり</p> <p>2. 能動的授業科目種類:アクティブラーニング(実習)</p> <p>3. 地域志向科目有無:なし</p> <p>4. 地域志向科目内容:-(ただし、実習そのものが地域の子どもの課題に直結する性質を持つことを自覚しておくこと)</p>		

授業年度	2017	シラバスNo	CT512A
講義科目名称	教育実習Ⅱ		
英文科目名称	Teaching InternshipⅡ		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中講義	4年	2単位	選択
担当教員	田代 武博		
開講意義目的	高等学校教員免許状を取得することを希望する者が、2週間にわたり、指導教員その他の教員の指導を受け、校務全般にかかわる実習をおこなうことによって、教員として必要とされるさまざまな実践力を養うことを目的とする。		
授業計画	<p>① 内容項目 本授業は15時間では編成されない。2週間、指定された日時に「勤務」すること。 以下(②～⑮)に、内容項目を示す。</p> <p>② 校務全般に関すること 校務処理についての学習</p> <p>③ 授業参観に関すること(専門教科) 専門教科についての学習指導見学</p> <p>④ 授業参観に関すること(専門教科以外) 専門教科以外の教科についての学習指導見学</p> <p>⑤ 授業実施に関すること(専門教科) 専門教科以外の教科および特別活動(ホームルーム活動等)についての学習指導実施</p> <p>⑥ 授業実施に関すること(専門教科以外) 専門教科以外の教科および特別活動(学級活動)についての学習指導実施</p> <p>⑦ 研究授業の参観に関すること 指導教員その他の研究授業の見学</p> <p>⑧ 査定授業の実施に関すること 査定授業の実施</p> <p>⑨ 生徒指導に関すること 学校の教育活動全般における生徒指導の実施</p> <p>⑩ 学級経営に関すること 配置された学級における学級経営の見学ならびに実施</p> <p>⑪ 生徒会活動に関すること 生徒会活動における学習・活動に対する指導の実施</p> <p>⑫ 部活動等の課外活動に関すること 部活動等の課外活動における学習・活動に対する指導の実施</p> <p>⑬ 学校行事への参加に関すること 学校行事への参加ならびに協力の実施</p> <p>⑭ 清掃等学校裁量時間に関すること 清掃等学校裁量時間における学習・活動への指導の実施</p> <p>⑮ 校務分掌に関すること 校務分掌に対する理解と協力</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は以下の教育目標との対応科目である。</p> <p>1)豊かな人間性と社会人基礎力:豊かな人間性に根ざした倫理観、幅広い教養、理論と実践を結びつける学習姿勢を身につけ、教育者としての使命感と責任感、適切な社会性や他者との協調性をもち、主体的に行動することができる。【主体性・協働して学ぶ態度】</p> <p>2)創意工夫力・問題解決力:現代の教育をめぐる多種多様な問題について理解し、情報技術・コミュニケーション力を備え、創意工夫しながら課題解決に取り組むことができる。【思考・判断・表現】</p> <p>4)実務型技術者としての実践力:教育に関</p>		
授業の到達目標	校務全般にわたり、教師として必要とされる最低限の実践的な資質・能力・態度を身につける。		
指導方法	それぞれの実習受入校で、授業参観の指導・授業実施の指導・作業の指導・校務処理の指導その他校務全般にかかわる指導を受ける。		
教科書・参考書	教科書:各校により指定された教科書・その他の教材を使用すること。 参考書:同上		
評価方法	<p>評価項目:その他(100%)</p> <p>①教科に関する科目担当教員および実習受入校の指導教員による評価【40%】、②「教育実習日誌」の記述内容(指導教員の評語を含む)やヒアリング等に基づく教職に関する科目担当教員による評価【60%】、の2項目による総合評価。 「教育実習日誌」を必ず提出すること。</p>		
受講上の注意	本実習は、中学校一種免許状(数学)および高等学校一種免許状(数学、工業、情報)の教職に関する科目の「教育実習」区分の必修科目に該当する。		
授業外における学習方法	実習期間中は、宅習のための時間を割きづらくなることが多い。したがって、特に、受入校における事前打ち合わせから実習開始までの間に、十分な教材研究・指導案作成を行っておくこと。		
能動的授業科目及び地域志向科目	<p>1. 能動的授業科目有無:あり</p> <p>2. 能動的授業科目種類:アクティブラーニング(模擬授業・模擬講話・伝達練習など)</p> <p>3. 地域志向科目有無:なし</p> <p>4. 地域志向科目内容:-(ただし、実習そのものが地域の子どもの課題に直結する性質を持つことを自覚しておくこと)</p>		

授業年度	2017	シラバスNo	CT513A
講義科目名称	教育実習指導		
英文科目名称	Guidance for Teaching Internship		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期:3年、前期:4年	3,4年	2単位	選択
担当教員	田代 武博		
開講意義目的	事前指導と直前指導では、実習に参加する前に備えておかなければならない基礎知識や観点、実習中に心がけるべき態度やマナーなどについて実践的に理解・習得することを目的とする。事後指導では、実習についてのまとめと反省を行い、自己の教師としての自覚を深め、職責観を一層練り上げるとともに、一人一人が今後一層磨くべき部分を確認することを目的とする。		
授業計画	<p>1回 事前指導 その1 1. 授業の概要についての説明 2. 教育実習のしくみと意義</p> <p>2回 事前指導 その2 1. 求められる教師、求められる実習生 2. 教育実習の事前準備と心得</p> <p>3回 事前指導 その3 1. 学校での実習生の生活の流れ 2. 実習中の観点・留意点(学習指導・生徒指導・学級経営)</p> <p>4回 事前指導 その4 1. 服装点検 2. 「教育実習日誌」の記入について</p> <p>5回 事前指導 その5 1. SHRの指導(実演)</p> <p>6回 事前指導 その6 1. 伝達事項練習(実演) 2. 指導案と板書計画について</p> <p>7回 直前指導 その1 1. 「教態」の確認 2. 模擬講話(LHR想定。15分)の指導(実演)および反省</p> <p>8回 直前指導 その2 1. 模擬講話(LHR想定。15分)の指導(実演)および反省 2. 中間講評</p> <p>9回 直前指導 その3 1. 模擬講話(LHR想定。15分)の指導(実演)および反省 2. 総括講評</p> <p>10回 直前指導 その4 1. 「教態」の再確認 2. 事前打合せと礼状について 3. その他の配慮事項</p> <p>11回 直前指導 その5 1. ゲスト・ティーチャーに学校の実際についての話をうかがう。</p> <p>12回 事後指導 その1 1. 報告書の作成について(要領説明) 2. 班分けと報告の打合せ</p> <p>13回 事後指導 その2 1. 口頭による実習報告ならびに質疑応答 その1 2. 課題析出(中・高校数学, 道徳, 情報)</p> <p>14回 事後指導 その3 1. 口頭による実習報告ならびに質疑応答 その2 2. 課題析出(工業)</p> <p>15回 事後指導 その4 1. 口頭による実習報告ならびに質疑応答 その3 2. 口頭報告と報告書を踏まえた総括</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は以下の教育目標との対応科目である。</p> <p>1)豊かな人間性と社会人基礎力:豊かな人間性に根ざした倫理観, 幅広い教養, 理論と実践を結びつける学習姿勢を身につけ, 教育者としての使命感と責任感, 適切な社会性や他者との協調性をもち, 主体的に行動することができる。【主体性・協働して学ぶ態度】</p> <p>2)創意工夫力・問題解決力:現代の教育をめぐる多種多様な問題について理解し, 情報技術・コミュニケーション力を備え, 創意工夫しながら課題解決に取り組むことができる。【思考・判断・表現】</p> <p>4)実務型技術者としての実践力:教育に関</p>		
授業の到達目標	これまでに学んできた知識技能を, 授業実施や校務遂行の場面を想定したロールプレイや模擬指導などを通じて整理しなおし, 教育実習において活用できる実践的な指導力として修得する。		
指導方法	事前指導(3年次の学年末～4年次初め)…講義, ロールプレイ, 模擬講話(実演), 模擬指導(実演)などを組み合わせて実施する。 直前指導(4年次の4～5月)…事前指導で履修した必須事項の確認, 受講者主体の実演などを行う。 事後指導(実習終了後)…報告書の作成や発表などを行う(低年次学生が聴講する可能性がある)。		
教科書・参考書	教科書:永添祥多・田代武博・岡野亜希子『高等学校教育実習ハンドブック』, 風間書房。 参考書:なし。補助教材としてプリントを配布する。 なお, 事前指導中に「教育実習日誌」を配布する。		

評価方法	授業参加・態度(実演などに取り組む姿勢や注意力を含む)【30%】、レポートおよび成果発表(提示だけでなく質疑応答も含む)【70%】の総合評価。
受講上の注意	教職関係:この実習は、中学校一種免許状(数学)および高等学校一種免許状(数学, 工業, 情報)の教職に関する科目の「教育実習」区分の必修科目に該当する。
授業外における学習方法	実習(指導)の時期に限らないが、特に実習が近づいたら、常に周りの人々のことを考えて行動するクセをつける。言葉遣いや態度は日常生活の実践を通じてこそ定着するものだと自覚して日々過ごす。
能動的授業科目及び地域志向科目	1. 能動的授業科目有無:あり 2. 能動的授業科目種類:アクティブラーニング(模擬授業・模擬講話・伝達練習など) 3. 地域志向科目有無:なし 4. 地域志向科目内容:ー

授業年度	2017	シラバスNo	CT514A
講義科目名称	教職実践演習		
英文科目名称	Practical Seminar for Teaching Profession		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年	2単位	選択
担当教員	田代 武博		
開講意義目的	この科目は、3年半の教職課程科目履修の学習成果をふりかえってそれらを有機的に統合し、また、足りない分を補完することによって、教壇に立つ直前の段階で求められる実践的指導力を養うことを目的とする。		
授業計画	<p>1回 オリエンテーション ①授業の目的・内容・進め方についての説明 ②「教職カルテ」による省察</p> <p>2回 学年部会想定グループワーク I 前回の②の省察を踏まえ、教師をめぐる諸課題についての取り組みを企画する。</p> <p>3回 学年部会想定グループワーク II 生徒をめぐる諸課題についての取り組みを企画する。</p> <p>4回 生徒指導及び学級経営に関する実践演習 I 教師の指定するテーマ・課題(いじめ・体罰など生徒指導に関するテーマ・課題)について、受講者各自が制限時間内に意見をまとめ、それをもとに討論を実施する。</p> <p>5回 生徒指導及び学級経営に関する実践演習 II 教師の指定するテーマ・課題(一人一人を活かし、前向きに学習に取り組ませる学級経営に関するテーマ・課題)について、受講者各自が制限時間内に意見をまとめ、それをもとに討論を実施する。</p> <p>6回 学校見学 学校開放週間に学校を見学させていただく。 (先方の事情により、実施日を変更したり、実施内容を変更したりすることがある) なお、この時間に、学校関係者より、教育現状・課題について簡単なお話を拝聴する。</p> <p>7回 学校見学会の反省とまとめ 前時のふりかえりを行い、反省点や気づきを整理するとともに、その内容について意見交換を実施する。 なお、この時間は、第14時に掲げる講演の実施時期次第で、その反省とあわせて実施する可能性がある。</p> <p>8回 学級経営案の作成と発表 前時に伝達した学級経営案作成要領にしたがい各自が作成した経営案を発表し、意見交換を実施する。</p> <p>9回 学級経営案の作成と発表 II 各自が作成した経営案を発表し、意見交換を実施する。 学級経営に関する要点の確認を行う。 マイクロティーチングについての予告をする。</p> <p>10回 マイクロティーチング I (指定観点:教態全般)前時までに指定した課題と要領にしたがい、各自15分程度の模擬授業を実施する。この日に授業を実施しない受講者は、生徒役となり、あるいは質問・意見発表者となる。</p> <p>11回 マイクロティーチング II (指定観点:生徒とのやりとり)前時までに指定した課題と要領にしたがい、各自15分程度の模擬授業を実施する。この日に授業を実施しない受講者は、生徒役となり、あるいは質問・意見発表者となる。 マイクロティーチングについての中間まとめ・講評を行う。</p> <p>12回 マイクロティーチング III (指定観点:指導案との整合性)前時までに指定した課題と要領にしたがい、各自15分程度の模擬授業を実施する。この日に授業を実施しない受講者は、生徒役となり、あるいは質問・意見発表者となる。 [レポート課題提示]</p> <p>13回 マイクロティーチング IV (指定観点:前回までの観点すべて)前時までに指定した課題と要領にしたがい、各自15分程度の模擬授業を実施する。この日に授業を実施しない受講者は、生徒役となり、あるいは質問・意見発表者となる。 [レポート提出]</p> <p>14回 教育委員会の方または現職教員の方からの講話 教育委員会の方または現職教員の方におしを願い、現在の学校教育について、求められる教師のあり方について講話をいただく。受講者全員が積極的に質問を行う。また、受講者が模擬授業(ショート)を実施し、指導ならびに講評をいただく。 (なお、先方の都合により、この曜日と時間帯は通常の授業とは異なることがある。)</p> <p>15回 総合的なふりかえり [レポートの講評・解説] 担当教員が観点を提起し、受講者はその観点到して最終的な課題発表を行う。</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は以下の教育目標との対応科目である。</p> <p>1)豊かな人間性と社会人基礎力:豊かな人間性に根ざした倫理観、幅広い教養、理論と実践を結びつける学習姿勢を身につけ、教育者としての使命感と責任感、適切な社会性や他者との協調性をもち、主体的に行動することができる。【主体性・協働して学ぶ態度】</p> <p>2)創意工夫力・問題解決力:現代の教育をめぐる多種多様な問題について理解し、情報技術・コミュニケーション力を備え、創意工夫しながら課題解決に取り組むことができる。【思考・判断・表現】</p> <p>4)実務型技術者としての実践力:教育に関</p>		
授業の到達目標	集団討論、講話聴取(質疑応答)や授業見学ならびにそのフリーフィングなどを通じて、これまでに身につけてきたさまざまな知識や能力を実践で活用できるレベルに補充・深化・統合し、それを駆使することができる。		
指導方法	講話聴取ならびに質疑応答、マイクロティーチング、模擬会議およびそれらに対する学校教師経験者等ゲストティーチャーによる助言指導などを、テーマに応じてとりいれる。		
教科書・参考書	教科書:なし。受講者自らが記録してきた「教職カルテ」を使用するので持参すること。 参考書:授業中に紹介する。 なお、プリントや指導案が配布されることがあるので、ファイルの一部用意しておくこと。		

評価方法	授業参加・態度および成果発表(実演, 質疑応答をふくむ)【75%】, レポート【25%】の総合評価とする。
受講上の注意	教職関係:本演習は, 中学校一種免許状(数学)および高等学校一種免許状(工業, 情報, 数学)の教職に関する科目の「教職実践演習」区分の必修科目に該当する。
授業外における学習方法	①この科目の授業外学習については, 具体的に何時間学習するなどというスタンスをとらないこと。常時, 教師見習いとしての心構えを忘れず, さまざまな人から謙虚に学ぶ姿勢を忘れず, 日々の対話や読書, ボランティア活動に主体的にかかわることが予復習である。以上の日頃の学習成果は随時, 授業内で「問答法」により確認する。 ②板書練習など行いたい場合は担当教員に申し出ること(教室確保の用意がある)。
能動的授業科目及び地域志向科目	1. 能動的授業科目有無:あり 2. 能動的授業科目種類:アクティブラーニング(模擬授業, 模擬会議, 教育委員会関係者・教員経験者等との課題解決的対談等) 3. 地域志向科目有無:あり 4. 地域志向科目内容:一部, 京築地域の教育課題への対応を考察する場面がある。

授業年度	2017	シラバスNo	CT514B
講義科目名称	教職実践演習		
英文科目名称	Practical Seminar for Teaching Profession		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年	2単位	選択
担当教員	山縣 宏美		
開講意義目的	模擬授業等の活動を通して教職課程を履修した学生がこれまで身につけてきた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて最終的に確認することを目的とする。全学年を通じた学びの集大成として位置づけられる授業であり、この科目の履修を通じて将来教員になる上での課題を自覚し、不足している知識や技能を補い、その定着を図ることが期待される。		
授業計画	<p>1回 オリエンテーション, 教育実習のふりかえり オリエンテーション 前期に行った教育実習をふりかえり, 反省点等について報告する</p> <p>2回 教員になる上での自己課題 4年間の教育課程をふりかえり, 自己の課題について考える</p> <p>3回 指導計画の作成 模擬授業の計画を立てる</p> <p>4回 指導計画の検討(1) 各自作成した指導案について全員で検討会を行う</p> <p>5回 指導計画の検討(2) 各自作成した指導案について全員で検討会を行う</p> <p>6回 模擬授業(1) 模擬授業の実施(1人30分)</p> <p>7回 模擬授業(2) 模擬授業の実施(1人30分)</p> <p>8回 模擬授業(3) 学外での実践の準備</p> <p>9回 模擬授業(4) 学外での実践</p> <p>10回 事例分析(1) 学級運営上の問題について事例検討を行う</p> <p>11回 事例分析(2) 学級運営上の問題について事例検討を行う</p> <p>12回 「問題行動」への対応(1) 「いじめ」「不登校」などの問題についてロールプレイングを行う</p> <p>13回 「問題行動」への対応(2) 「いじめ」「不登校」などの問題についてロールプレイングを行う</p> <p>14回 「問題行動」への対応(3) 「いじめ」「不登校」などの問題についてロールプレイングを行う</p> <p>15回 理想の教師像 講義, ディスカッションにより, 理想の教師像について考える</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は以下の教育目標との対応科目である。</p> <p>1)豊かな人間性と社会人基礎力:豊かな人間性に根ざした倫理観、幅広い教養、理論と実践を結びつける学習姿勢を身につけ、教育者としての使命感と責任感、適切な社会性や他者との協調性をもち、主体的に行動することができる。</p> <p>2)創意工夫力・問題解決力:現代の教育をめぐる多種多様な問題について理解し、情報技術・コミュニケーション力を備え、創意工夫しながら課題解決に取り組むことができる。</p> <p>4)実務型技術者としての実践力:教育に関する理論及びそれを実践する基礎技能を身につける</p>		
授業の到達目標	<p>将来、教員になる上で必要な資質能力を身につける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育に対する情熱・使命感を持つ ・教育の重要性を認識する ・教育に関する専門的な知識を有す ・授業実践に関する力量が高まる ・生徒との良好な関係を保つ工夫ができる ・社会性と協調性を兼ね備えた人間性を有す ・幅広い教養を身につける 		
指導方法	各人による課題設定, 模擬授業, 討論によって授業を進めていくゼミ形式で行う		
教科書・参考書	教科書:なし 参考書:なし		

評価方法	授業中の提出物(30点), 模擬授業(30点), 討論等への参加態度(40点)で評価を行う
受講上の注意	教職関係:本演習は、中学校一種免許状(数学)及び高等学校一種免許状(数学、工業又は情報)の教職に関する科目の「教職実践演習」区分の必修科目に該当する。
授業外における学習方法	授業中に行う模擬授業, 討論, ロールプレイング等について授業以外の時間で準備, 練習を行っておくこと
能動的授業科目及び地域志向科目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 能動的授業科目有無:あり 2. 能動的授業科目種類:グループワーク形式のアクティブラーニング 3. 地域志向科目有無:あり 4. 地域志向科目内容:西小倉地域でのデザイン教室

授業年度	2017	シラバスNo	CT515A
講義科目名称	職業指導 I		
英文科目名称	Vocational Guidance 1		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2単位	選択
担当教員	立石 義孝		

開講意義目的 我が国の場合、小学校・中学校・高等学校における職業指導は、大きくは職業指導、進路指導、キャリア教育と変遷してきている。そのため、生徒一人ひとりのキャリア発達を支援し、それぞれに相応しいキャリアを形成していく上での必要な意欲・態度を育てることが求められている。すなわち、生徒一人ひとりの勤労観、職業観を育てる教育への転換が必要である。本科目では「職業指導」が求められる背景や成立基盤を理解し、学校や行政機関の職業指導の役割や指導内容を学習する。具体的には職業指導を支える主要な理論（職業選択理論、職業発達理論など）

授業計画	<p>1回目 オリエンテーション 1) 講義の内容 2) 講義の進め方 3) 評価基準の方法 4) 若年者の雇用状況 5) 学校に求められている課題</p> <p>2回目 職業指導の歴史と位置づけ(1) 1) 職業指導の歴史と発達 2) 諸外国の職業および進路指導 ①ドイツ ②フランス ③イギリス ④アメリカ ⑤中国 ⑤韓国</p> <p>3回目 職業指導の歴史と位置づけ(2) 1) 我が国の職業および進路指導の展開 ①職業指導の創始期 ②学校における職業指導 ③戦時下の職業指導 ④戦後における職業指導</p> <p>4回目 職業および進路指導の意義と基礎理論 1) 職業および進路指導の意義 ①社会的意義と教育的意義 2) 進路選択の発達に関する基礎理論 ①職業的発達理論</p> <p>5回目 職業生活の基礎知識(1) 1) 職業の意義とその社会 ①職業の意義 ②職業の3要素 ③職業の種類</p> <p>6回目 職業生活の基礎知識(2) 1) 職業適性とその規定要因① ①個性理解 ②適性と適応</p> <p>7回目 職業生活の基礎知識(3) 1) 職業適性とその規定要因② ①身体的側面 ②感覚的側面 ③知的側面(知能)</p> <p>8回目 職業生活の基礎知識(4) 1) 職業適性とその規定要因③ ④知的側面(学力) ⑤性格的側面 ⑥興味的側面</p> <p>9回目 職業生活の基礎知識(5) 1) 職業訓練と組織内キャリア ①職業訓練の意義とその方法 ②組織内キャリアの発達</p> <p>10回目 職業生活の基礎知識(6) 1) 職場集団のダイナミクス ①組織における人間行動 ②リーダーシップ性 ③職場のコミュニティー ④X理論とY理論</p> <p>11回目 職業生活の基礎知識(7) 1) 職場のメンタルヘルス ①メンタルヘルスとは ②職場でのストレスとその対処</p> <p>12回目 進路指導の組織と運営 1) 進路指導の組織の現状と課題 2) 進路指導における教師の役割 3) 進路指導の運営</p> <p>13回目 進路指導の諸活動 1) 生徒理解と自己理解 2) 進路情報とその相談 3) 啓発的経験 4) 進路先の選択と決定への支援 5) 卒業後の追指導</p> <p>14回目 産業および職業社会と進路指導 1) 産業社会および職業構造の変化 2) 社会変化に対する学校での進路指導の対応 3) 生涯生活設計の問題(ワークライフバランス)</p>
-------------	--

	15回目 まとめ 学期末試験と今後の課題・展望
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は以下の教育目標との対応科目です。 3)教科指導、生徒指導のための知識、教科等に関する専門的知識を修得する。(知識・理解)
授業の到達目標	職業教育の指導を受けることにより、個性を伸ばすきめ細かなキャリア教育の指導ができ、産業界・職場で尊敬され、頼りにされ、自立した教育者になれるようにする。
指導方法	本時は受講者との双方向の意欲的な参加型の講義形式を図りながら授業展開をしていくので、事前にインターネットや参考書等で予備知識を持っておいて下さい。また、ミニテストやレポート課題等を取り入れます。
教科書・参考書	教科書:高等学校キャリア教育の手引き 文部科学省編集 教育出版 参考書:三村隆男『新訂・キャリア教育入門(その理論と実践のために)』実業之日本社 日本キャリア教育学会編『キャリア教育概説』東洋館出版社 斉藤武雄, 佐々木英一, 田中喜美, 依田有弘 編著『ノンキャリア教育としての職業指導』学文社 キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会 『キャリア教育コーディネーター 朝日新聞出版 文部科学省『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(中央教育審議会答申)』
評価方法	①授業参加に対する態度 20% ②レポート課題の提出内容 20% ③ミニテスト 20% ④期末試験の成績 40% 以上の4つの割合により総合的に評価します。
受講上の注意	・教職関係:本講義は、高等学校一種免許状(工業)の教科に関する科目(工業)の「職業指導」区分の必修科目に該当します。 ・授業開始後5分以上遅刻した場合、および入室後退出した場合には欠席扱いにします。 ・受講教室に入る前に必ず携帯電話等の通信機器は、電源を切るかマナーモードにしてください。 ・携帯電話等の通信機器使用や授業集中していない場合(内職等)には退室して頂き、欠席扱いにします。
授業外における学習方法	新聞等のマスメディアやインターネットにおいて、授業計画に沿った内容に関する記事を事前に調べ、指定教科書の該当部分を通読しておいて下さい。また、前回の授業内容の定着度を確認するため、ミニテストを実施するので必ず教科書や配布したプリント等の復習を欠かさずして下さい。 常日頃から若年者の進路・職業をめぐるマスコミ・報道関係や文部科学省ホームページ(特に生徒指導等のキャリア教育)等も参考にしてください。真摯な態度での受講をお願いします。
能動的授業科目及び 地域志向科目	・能動的授業科目有無:なし 能動的授業科目種類:一 ・地域志向科目有無:なし 地域志向科目内容:一

授業年度	2017	シラバスNo	CT516A
講義科目名称	職業指導Ⅱ		
英文科目名称	Vocational Guidance 2		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	2単位	選択
担当教員	立石 義孝		

開講意義目的 我が国の場合、小学校・中学校・高等学校における職業指導は、大きくは職業指導、進路指導、キャリア教育と変遷している。そのため、生徒一人ひとりのキャリア発達を支援し、それぞれに相応しいキャリアを形成していく上での必要な意欲・態度を育てることが求められている。すなわち、生徒一人ひとりの勤労観、職業観を育てる教育への転換が必要である。本科目では、このような変遷を踏まえながら、進路指導・キャリア教育の目的、対象、活動領域、方法・技術などについて学ぶことにより、高等学校における生徒の職業・進路指導をどのように支援する

授業計画	<p>職業指導201 学校におけるキャリア教育・職業教育の概論(1)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) キャリア教育とは何か 2) キャリア教育の必要性と意義 <ol style="list-style-type: none"> ① キャリア教育の定義 ② キャリアとは ③ キャリア発達とは ④ キャリア教育の視点とは ⑤ キャリア教育の目標 <p>職業指導202 学校におけるキャリア教育・職業教育の概論(2)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) キャリア教育と職業指導 2) キャリア教育と進路指導 3) 進路指導からキャリア教育へ 4) 小学校や中学校におけるキャリア教育 <p>職業指導203 キャリア教育・職業教育の課題と基本的な方向性(1)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) キャリア教育の内容と課題 2) キャリア教育・職業教育の基本的な方向性 <p>職業指導204 キャリア教育・職業教育の課題と基本的な方向性(2)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) キャリア教育・職業教育の方向性を考える上での視点 <ol style="list-style-type: none"> ① 仕事をすることの意義と幅広い視点から職業の範囲を考えさせる指導 ② 社会的、職業的自立・学校から社会・職業への円滑な移行に必要な力の明確化 <p>職業指導205 発達段階に応じた体系的なキャリア教育の充実</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) キャリア教育の充実に関する基本的な考え方 2) キャリア教育の充実の方策 3) 各学校段階における推進のポイント <p>職業指導206 高等学校におけるキャリア教育・職業教育の充実(現論編1)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 高等学校におけるキャリア教育・職業教育の課題 2) 高等学校におけるキャリア教育・職業教育の基本的な考え方 3) 高等学校におけるキャリア教育・職業教育の充実 <p>職業指導207 高等学校におけるキャリア教育・職業教育の充実(現論編2)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 専門学科における職業教育の重要性と推進方法 2) 専門学科における職業教育の質の保証・向上とそのための環境整備 <ol style="list-style-type: none"> ① 専門学科における職業教育の質の保証・向上と学習成果の積極的な評価 ② 専門学科における職業教育の充実のための環境整備 ③ 専門学科における職業教育の推進方法 <p>職業指導208 高等学校におけるキャリア教育・職業教育の充実(実践1)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 設置形態、学科特質に応じたキャリア教育の推進 2) 校内組織の整備の推進 <p>職業指導209 高等学校におけるキャリア教育・職業教育の充実(実践2)</p> <ol style="list-style-type: none"> 3) 全体計画の作成 4) 年間計画の作成 <p>職業指導210 高等学校におけるキャリア教育・職業教育の充実(実践3)</p> <ol style="list-style-type: none"> 5) 連携の推進 6) 効果的なインターンシップの在り方 7) キャリア教育の評価 <p>職業指導211 高等学校におけるキャリア教育・職業教育の充実(実践4)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 高等学校におけるキャリア発達 2) 高校生期のキャリア発達課題 3) 入学から卒業まで見通した系統的なキャリア教育の取組み 4) 各教科等における取組み <p>職業指導212 キャリア・カウンセリング(1)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) キャリア・カウンセリングの理論と技法 <ol style="list-style-type: none"> ① キャリア概念と理論 ② カウンセリングの概念と理論 ③ キャリア・カウンセリング概念と基本的性格 <p>職業指導213 キャリア・カウンセリング(2)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) キャリア・カウンセリングの活用と実際 <ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンスとカウンセリングの関係 ② キャリア・カウンセリング担当者に求められる資質 ③ 未来創造のカウンセリング <p>職業指導214 生涯学習の観点に立つキャリア形成支援の充実</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 生涯学習の観点に立つキャリア形成支援の必要性 2) 学校から社会・職業へ移行した後の学習者に対する支援 3) 中途退学者や無業者等のキャリア形成のための支援 4) 職業に関する生涯にわたる学習を支える基盤の形成 <p>職業指導215 キャリア教育・職業教育の充実のための様々な連携の在り方</p>
-------------	---

	1)連携の基本的な考え方 2)地域・社会との連携 3)産業会等との連携 4)学校間・異校種間の連携 5)家庭・保護者との連携 6)関係行政機関との連携
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は以下の教育目標との対応科目です。 3)教科指導、生徒指導のための知識、教科等に関する専門的知識を修得する。(知識・理解)
授業の到達目標	職業教育の指導を受けることにより、個性を伸ばすきめ細かなキャリア教育の指導ができ、産業界・職場で尊敬され、頼りにされ、自立した教育者になれるようにする。
指導方法	本時は受講者との双方向の意欲的な参加型の講義形式を図りながら授業展開をしていくので、事前に参考書等で予備知識を持っておいて下さい。また、ミニテストやレポート課題等を取り入れます。
教科書・参考書	教科書:高等学校キャリア教育の手引き 文部科学省編集 教育出版 参考書:三村隆男『新訂・キャリア教育入門(その理論と実践のために)』実業之日本社 日本キャリア教育学会編 キャリア教育概説 東洋館出版社 日本キャリア教育学会編 キャリア・カウンセリングハンドブック 中部日本教育分代会 斉藤武雄, 佐々木英一, 田中喜美, 依田有弘 編著『ノンキャリア教育としての職業指導』学文社 キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会 キャリア教育コーディネーター 朝日新聞出版 文部
評価方法	①授業参加に対する態度 20% ②レポート課題の提出内容 20% ③ミニテスト 20% ④期末試験の成績 40% 以上の4つの割合により総合的に評価します。
受講上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・教職関係:本講義は、高等学校一種免許状(工業)の教科に関する科目(工業)の「職業指導」区分の必修科目に該当します。 ・授業開始後5分以上遅刻した場合、および入室後退出した場合には欠席扱いにします。 ・受講教室に入る前に必ず携帯電話等の通信機器は、電源を切るかマナーモードにしてください。 ・携帯電話等の通信機器使用や授業集中していない場合(内職等)には退室して頂き、欠席扱いにします。
授業外における学習方法	新聞等のマスメディアやインターネットにおいて、授業計画に沿った内容に関することを事前に調べ、指定教科書の該当部分を通読しておいて下さい。また、前回の授業内容の定着度を確認するため、ミニテストを実施するので必ず教科書や配布したプリント等の復習を欠かさずして下さい。常日頃から若年者の進路・職業をめぐるマスコミ・報道関係や文部科学省ホームページ(特に生徒指導等のキャリア教育)等も参考にして下さい。また、真摯な態度で受講して下さい。
能動的授業科目及び地域志向科目	<ul style="list-style-type: none"> ・能動的授業科目有無:なし 能動的授業科目種類:ー ・地域志向科目有無:なし 地域志向科目内容:ー